

『中学社会地理的分野』

学習指導計画作成資料

■地理的分野 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

	(1)	(2)	(3)
目標	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

(中学校学習指導要領P. 41～42)

■地理的分野 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(平成31年3月29日付け30文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」の「[別紙4] 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」P. 4 引用)

※地理的分野の学習指導要領の目標を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理した表です。

■年間指導計画

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
1	1 地理との出会いー地理的な見方・考え方って？ ー（教科書P. II-III）	○授業開きに際して、楽しい雰囲気の下で地理的な見方・考え方を働かせる地理学習に向けての期待を高める。 ○社会的な事象を地理的に捉える際に、五つの見方・考え方を生かすことが有効であることを理解する。	知識・技能 社会的な事象を地理的に捉える際の五つの見方・考え方について理解し、それがこれからの学習の上で有効であることに気付いている。 主体的に学習に取り組む態度 1年間の授業に先立って、地理的な見方・考え方を働かせる地理学習に向けての期待を抱き、授業への意欲を高めている。

第1編 世界と日本の地域構成

第1編の目標	
○世界と日本の地域構成を大観し、理解する。 ○世界と日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ○地理的分野の学習の基礎になる様々な概念を身に付け、今後の学習に生かそうとする態度を養う。	
第1編の 評価規準	知識・技能 ・世界と日本の地域構成を大観するために必要な概念を理解し、身に付けている。 ・様々な資料から、世界と日本の地域構成についての情報を適切に読み取っている。
	思考・判断・表現 ・世界と日本の地域構成の特色を、文章や略地図などで適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度 ・世界と日本の地域構成に対する関心を高め、身に付けた概念を今後の学習に生かそうとしている。

第1節 世界の地域構成

学習指導要領の内容：A(1)

第1節の目標
○世界の地域構成を大観し、大陸と海洋の分布、地域区分、緯度・経度の概念、地球儀と地図の特色と違いなどを理解する。 ○世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や、主な国の位置、緯度や経度などに着目して考察し、表現する。 ○世界の地域構成に対する関心を高め、身に付けた概念を今後の学習に生かそうとする。
【単元を貫く問い】 世界はどのような姿をしていて、どのように成り立っているのでしょうか。

第1節の評価規準	知識・技能
	<ul style="list-style-type: none"> 大陸と海洋の分布，地域区分，緯度・経度の概念，地球儀と地図の特色などを理解し，その知識を身に付けている。 様々な資料から，世界の地域構成についての情報を適切に読み取っている。
	思考・判断・表現
	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成を，大陸と海洋の分布，主な国の名称と位置，緯度・経度などから考察し，その過程や結果を文章や略地図などに適切に表現している。 州や州を幾つかに区分した地域区分をもとに世界を大観し，その過程や結果を適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成に対する関心を高め，それを意欲的に追究している。 世界の略地図を描く活動に意欲的に取り組んでいる。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で，それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
2	1 地球の姿をながめよう (教科書P.2-3) ・六大陸と三大洋 ・六つの州に分けられる世界	○地球の大陸と海洋の分布（位置関係）をイメージとして把握する。 ○陸地と海洋の面積の割合，六大陸と三大洋の名称，世界の地域区分を説明する。	知識・技能★ 陸地と海洋の面積の割合，六大陸と三大洋の名称と位置関係，世界の六つの州とアジア州内の地域区分を理解している。 主体的に学習に取り組む態度 地球儀を活用し，地球の姿について意欲的に追究している。
3	2 主な国々の名前と位置をとらえよう(1) (教科書P.4-5) ・国境からみる世界 ・人口と面積からみる世界	○地図や統計資料を使って国境や人口・面積の観点から主な国々の名称と位置を捉える。 ○地図上で自然的国境と人為的国境を見分け，そのような国境が引かれた背景を考える。	知識・技能★ 国境や人口・面積の観点から，世界の主な国々の名称と位置を理解している。 主体的に学習に取り組む態度 統計資料を活用して，主な国々の人口や面積を意欲的に調べている。
4	3 主な国々の名前と位置をとらえよう(2) (教科書P.6-7) ・国名からみる世界 ・国旗からみる世界	○国名や国旗の観点から，主な国々の名称と位置を捉える。 ○似ている国名や国旗をもつ国の位置関係や歴史的背景にどのような特色があるか考察する。	知識・技能★ 国名や国旗の観点から，世界の主な国々の名称と位置を理解している。 思考・判断・表現 国名の由来や国旗のモチーフなどを調べ，様々な観点から共通項を見つけて分類している。
5	4 緯度と経度のしくみをとらえよう (教科書P.8-9) ・緯度・経度のしくみ	○緯度・経度，緯線・経線，赤道，本初子午線の意味を理解する。 ○地図帳の索引から特定の場所を探し，その位置を緯度・経度で表す。	知識・技能 地図や地球儀に引かれた緯線・経線を利用し，緯度・経度を読み取って，地球上の位置を特定している。 思考・判断・表現★ 緯度・経度，緯線・経線，赤道，本初子午線の意味を理解し，地球上の様々な国や都市の位置を説明している。
6	5 地球儀と世界地図から世界をとらえよう (教科書P.10-11) ・地球儀と世界地図	○地球儀と地図の長所・短所を理解するとともに，主な図法の特色を理解し，目的に応じた地図を選択する。	知識・技能 距離・方位調べや面積の比較などにおいて，適切な図法の地図を選択し，活用している。

・地図の図法と使いみちを知る	○地球儀と世界地図、各図法の長所と短所を説明する。	思考・判断・表現 地球儀と世界地図、各図法の長所と短所を的確に説明している。
----------------	---------------------------	--

第2節 日本の地域構成

学習指導要領の内容：A(1)

第2節の目標	
<p>○地図を活用して、世界的視野から国土の位置や領域の特色を理解するとともに、日本の領域をめぐる問題や日本の様々な地域区分、県の名称と位置、県庁所在地の名称を理解する。</p> <p>○日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○日本の地域構成に対する関心を高め、身に付けた概念を今後の学習に生かそうとする。</p> <p>【単元を貫く問い】 日本は世界の中ではどこにあり、どのように広がっているのでしょうか。</p>	
第2節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の国土の位置、世界各地との時差、領域をめぐる問題、県の名称と位置、県庁所在地の名称、地域区分などを理解し、その知識を身に付けている。 様々な資料から、日本の地域構成についての情報を適切に読み取っている。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の地域構成を、国土の位置、世界各地との時差、領域をめぐる問題、地域区分などから考察し、その過程や結果を文章や図版で適切に表現している。 7地方区分や日本を幾つかに区分した地域区分をもとに日本を大観し、その過程や結果を適切に表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の地域構成に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。 日本の略地図を描く活動に意欲的に取り組んでいる。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
7	1 日本の位置をとらえよう (教科書P.12-13) ・緯度・経度からみた日本の位置 ・他国からみた日本の位置	○日本の位置を、絶対的位置と相対的位置の双方から表現する。 ○日本の位置の示し方には様々な方法があることに気付く。	思考・判断・表現★ 世界の中での日本の位置を理解し、絶対的位置と相対的位置の双方で的確に表現している。 主体的に学習に取り組む態度 世界地図や地球儀を見ながら、日本の位置を絶対的位置や相対的位置の視点を用いて捉えようとしている。
8	2 日本と世界各地との時差をとらえよう (教科書P.14-15) ・世界各地の標準時 ・時差のしくみを知る	○標準時・時差の仕組みを理解し、等時帯を示す地図を読み取る。 ○標準時・時差の仕組みから、地球上における日本と世界各地との位置関係を捉える。	知識・技能★ 標準時・時差の仕組みを理解し、日本と世界各地の時差を正しく読み取っている。 思考・判断・表現 なぜ世界各地で標準時が決められているのか、時差を知ることはどんな時に役立つのかを、国際化した生活場面と関連付けて捉えている。
9	3 日本の領域の特色をとらえよう	○領土・領海・領空・排他的経済水域の定義や、日本の領域	知識・技能 領土・領海・領空・排他的経済水域の

	(教科書P. 16-17) ・日本の領域をとらえる ・日本の海の国境	の特色に関する基礎的事項を理解する。 ○日本の領域についての思考を深め、海洋国家である日本の領域の特色を表現する。	定義を理解し、日本の領域の特色を理解している。 思考・判断・表現 日本の領域の特色を日本が海洋国であることと関連付けて考察し、的確に説明している。
10	4 日本の領域をめぐる問題をとらえよう (教科書P. 18-19) ・北方領土 ・竹島 ・領土問題の解決に向けて ・尖閣諸島をとりまく情勢	○日本の領域をめぐる問題を、歴史的経緯も踏まえて理解する。 ○日本の領域をめぐる問題について、日本や近隣諸国との関係を踏まえて、解決に向けてどのような方策がとられてきたかを説明する。	知識・技能 日本固有の領土である北方領土と竹島の問題について、その現状と我が国の主張、ロシア・韓国に対応について理解している。 思考・判断・表現★ 日本の領域をめぐる問題を多面的・多角的に捉えながら、解決に向けて今までとられてきた方策を説明している。
11	5 日本の都道府県と7地方区分をとらえよう (教科書P. 20-21) ・都道府県と県庁所在地 ・日本の地域区分をとらえる	○県や県庁所在地の名称と位置を、地図上で身に付ける。 ○県境と7地方区分の特色を理解する。	知識・技能★ 県や県庁所在地の名称と位置を地図上で身に付けるとともに、県境や7地方区分の特色を理解している。 主体的に学習に取り組む態度 県の変化や県名の由来、県庁所在地名の由来に関心を持ち、意欲的に調べている。

第2編 世界のさまざまな地域

第1章 世界各地の人々の生活と環境

学習指導要領の内容：B(1)

第1章の目標	
<p>○世界の気候・宗教・言語の分布を大観する。</p> <p>○世界各地の人々の生活や環境の多様性を理解する。</p> <p>○世界各地の人々の生活の様子とその変容を、自然的条件や社会的条件と関連付けて考察する。</p> <p>○自分たちの生活や文化を絶対視することなく、世界各地の人々の多様な生活や文化を尊重する態度を身に付ける。</p>	
第1章の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の人々の生活の様子とその変容や環境の多様性を、自然的条件や社会的条件と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 ・世界には様々な宗教や言語があることや、世界の主な宗教や言語の分布について理解し、その知識を身に付けている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の人々の生活の様子とその変容や環境の多様性を、自然的条件や社会的条件と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・過去と現在の生活を比較して、人々の生活がどのように変容したかについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の人々の生活の様子とその変容や環境の多様性に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。 ・世界各地の人々の多様な生活や文化を尊重する態度を身に付けている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
12	1 世界のさまざまな場所 (教科書P.24-25) ・世界の食事のようすから	○世界各地の自然環境の特色を、それぞれの土地で暮らす人々の伝統的な食生活の様子を捉えた写真から読み取る。 ○日本と異なる地域に暮らす人々の生活に興味・感心を持ち、今後の学習に見通しをもって主体的に取り組む姿勢を育む。	知識・技能 1枚の写真または複数の写真を比較することから、世界各地の自然環境の特色や伝統文化についてその特色を読み取っている。 主体的に学習に取り組む態度★ 自然環境が異なる地域の人々の生活を写真から追究し、世界各地の人々の生活と環境の学習に対する興味や関心を高め、主体的に取り組んでいる。
—	【自由研究】 世界のさまざまな気候 (教科書P.26-27)	○世界の気候は、気温と降水量の違いから、気候帯やさらに細かい気候区に区分できることを理解する。 ○各気候区の特色を、植生、気温、降水量、緯度、標高などと関連付けて考察する。	知識・技能★ 世界各地には様々な気候帯があり、それらはさらに細かい気候区に区分されることを地図から理解している。 思考・判断・表現 各気候区の特色について、景観写真から植生などを読み取り、雨温図と関連付けて考察している。
13	2 暑い地域に生きる人々 —マレーシアの生活— (教科書P.28-29) ・森で生きる人々の生活 ・変わりゆく生き方	○暑い地域の自然環境とそこで暮らす人々の生活の工夫を関連付け、その特色について考察する。 ○先住民の生活の変化について、環境や政策などの面からの原因を考察する。	知識・技能 暑い地域の分布や、気候・植生の特色について理解している。 思考・判断・表現 暑い地域で暮らす人々の生活の様子を、住居や食事から読み取って表現している。同じように、生活の変容の状況とその原因について、表現している。
14	3 乾燥地域に生きる人々 —モンゴルの生活— (教科書P.30-31) ・モンゴルでの遊牧 ・家畜のめぐみ ・遊牧民の生活の変化	○乾燥地域の気候や自然の特色を知る。 ○乾燥地域の人々の生活の特色や生活の変容の原因を理解する。	知識・技能 乾燥地域の気候や人々の生活の特色と変化を理解している。 思考・判断・表現 乾燥地域で暮らす人々の生活の様子を、住居や食事から読み取って表現している。同じように、生活の変容の状況とその原因について、表現している。
15	4 温暖な地域に生きる人々 —イタリアの生活— (教科書P.32-33) ・イタリアの気候と農業 ・イタリアの街の生活 ・変化する食生活と家族	○温暖な地域の気候や自然の特色を知る。 ○温暖な地域の人々の生活の特色や生活の変容の原因を理解する。	知識・技能 温暖な地域の気候や人々の生活の特色と変化を理解している。 主体的に学習に取り組む態度 温暖な地域の生活の特色に対する関心を持ち、生活の変容の原因を意欲的に追究している。
16	5 寒い地域に生きる人々 —北アメリカ北部の生活— (教科書P.34-35) ・ツンドラ地域に住む人々の生活	○寒い地域の気候や自然の特色を知る。 ○寒い地域の人々の生活の特色や生活の変容の原因を理解する。	知識・技能 寒い地域の人々の生活とその変容について、基本的な知識と資料を読み取る技能が身に付いている。 思考・判断・表現

	・変化する生活		寒い地域で暮らす人々の生活の様子を、住居や食事から読み取って表現している。同じように、生活の変容の状況とその原因について、表現している。
17	6 高地に生きる人々— アンデスの生活— (教科書P. 36-37) ・アンデス山脈付近の生活 ・急速な生活の変化	○高地に生きる人々の生活の工夫と生活の変容について基本的な知識を身に付ける。 ○標高に応じて農業の形態を変容させる人々の工夫について資料を読み取る技能を身に付ける。	知識・技能 高地に生きる人々の生活の工夫と生活の変容について、基本的な知識と資料を読み取る技能が身に付いている。 思考・判断・表現 高地に生きる人々の生活の様子を、住居や食事から読み取って表現している。同じように、生活の変容の状況とその原因について、表現している。
18	7 さまざまな言語と人々の生活 (教科書P. 36-37) ・世界のさまざまな言語 ・言語の変化と人々の生活	○言語と人々の生活との関係や、世界の言語分布の概要を理解する。 ○グローバル化が進む中、急速に普及している言語や、消滅が予想されている言語があるなど、言葉の変容を知る。	知識・技能 世界の言語の分布や、言語と人々の生活について理解している。 思考・判断・表現 急速に普及していく言語と、消滅が予想される言語の違いを的確に説明している。
19	8 さまざまな宗教と人々の生活(教科書P. 38-39) ・世界の三大宗教 ・人々の生活に結びつく宗教	○世界の宗教分布の概要を理解する。 ○宗教と人々の生活との関係や、宗教の変容を知り、自分たちの生活の中の宗教との関わりを理解する。	知識・技能 世界の宗教の分布や主な宗教の特色、宗教と人々の生活との関係について理解している。 思考・判断・表現 人々の生活に根付く宗教が、社会の近代化や国際化に伴い変容していることを、的確に説明している。

第2章 世界の諸地域

第2章の目標	
	<p>○アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアの地域的特色を大観し、理解する。また、世界各地で顕在化している地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色を受けて、現れ方が異なることを理解する。</p> <p>○世界の各州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや他地域との結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。</p>
第2章の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・世界の各州に暮らす人々の生活をもとに、各州の地域的特色を大観し理解している。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の各州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや他地域との結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第1節 アジア州—人口や経済発展をテーマに—

学習指導要領の内容：B(2)

第1節の目標	
	<p>○アジアにおける経済発展とそれに伴う地球的課題の背景について、各地域の背景や地理的状况によって特色があることに留意しながら、基本的な知識と資料を読み取る能力を身に付ける。</p> <p>○アジアにおける経済発展とそれに伴う地球的課題が及ぼす地域への影響を、他地域との結び付きなどについて着目しながら、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.47「追究するテーマ」） アジアの国々は、どのようにして急速に経済を発展させたのでしょうか。また、どのようなことが課題となっているのでしょうか。</p>
第1節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの各地域の地域的特色と関連付けて、経済発展とそれに伴う地球的課題の要因について基本的な知識と資料を読み取る技能が身に付いている。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの各地域の経済発展とそれに伴う地球的課題が及ぼす地域への影響を、他地域との結び付きなどについて着目しながら、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展の中で変容していく各地域の政策や、伝統的な文化への影響などについて、意欲的に学習し、よりよい課題解決の方法などについて主体的に学習に取り組んでいる。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】 アジア州 (教科書P.44-45)</p>	<p>○景観写真からアジアの経済発展の様子や自然環境の特色をおおまかに捉える。</p> <p>○意欲的に、アジアの自然環境や人文環境について調べ、今</p>	<p>知識・技能 アジアの地域的特色を写真や地図からおおまかに捉えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 意欲的に、アジアの自然環境や人文環</p>

		後の学習内容について見方・考え方をつかみ、予想しようと取り組む。	境について調べ、今後の学習内容について見方・考え方をつかみ、予想しようと取り組んでいる。
20	1 アジアの自然環境と人々のかかわり (教科書P.46-47) ・変化に富む自然環境 ・巨大な人口と多様な文化 ・盛んな農業と工業化による経済発展	○アジアの多様な自然環境について基本的知識と資料を読み取る技能を身に付ける。 ○地形と人口分布の関連や、それぞれの地域で営まれる人々の生活の自然的背景を資料から読み取る。	知識・技能 アジアの多様な自然環境について基本的知識と資料を読み取る技能が身に付いている。 主体的に学習に取り組む態度 アジアの多様な自然環境と、その地域に住む人々の生活の工夫について意欲的に追究している。
21	2 世界への輸出による経済発展－東アジア－ (教科書P.48-49) ・東アジアの経済発展と工業化の進んだ韓国 ・急速に発展した中国の工業 ・経済発展にともなう中国の課題	○資料を読みとり、東アジア、特に中国の地球的課題について、基本的知識と資料を読み取る技能を身に付ける。 ○なぜ東アジアの国々が経済発展に成功したのか、他地域との結び付きに注目しながら説明する。	知識・技能 東アジアの地球的課題について、基本的知識と資料を読み取る技能が身に付いている。 思考・判断・表現★ なぜ東アジアの国々が経済発展に成功したのか、他地域との結び付きに注目しながら説明している。
22	3 地域統合などによる経済発展－東南アジア－ (教科書P.50-51) ・東南アジアの農業・漁業 ・各国が進む工業化 ・国々が協力して発展する東南アジア	○東南アジアの農業・工業の概要について、基本的な知識と資料を読み取る技能を身に付ける。 ○国家間の協力や結び付きを強める利点について説明する。	知識・技能 東南アジアの農業・工業の概要について、基本的な知識と資料を読み取る技能が身に付いている。 思考・判断・表現 国家間の協力や結び付きを強める利点について説明している。
23	4 人口増加と産業の変化による経済発展－南アジア－ (教科書P.52-53) ・人口の多さと多様な産業 ・インドの経済発展と南アジアへの企業の進出 ・経済発展による人々の生活の変化	○南アジアの産業や、宗教や歴史的背景について基本的な知識と資料を読み取る技能を身に付ける。 ○南アジア、特にインドの発展の要因を、他地域との結び付きから説明する。	知識・技能 南アジアの産業や、宗教や歴史的背景について、基本的な知識と資料を読み取る技能が身に付いている。 思考・判断・表現★ 南アジア、特にインドの発展の要因を、他地域との結び付きから説明している。
24	5 豊富な資源を生かした経済発展－西アジア・中央アジア－ (教科書P.54-55) ・石油を生かして経済発展を続ける西アジア ・鉱産資源の開発が進む中央アジア ・イスラム教の影響が強い社会 ・くり返される紛争	○西アジアの経済発展に由来する地域外への影響力と地域内の紛争について説明する。 ○経済発展の中で変容していく各地域の政策などについて、よりよい課題解決の方法を意欲的に追究する。	思考・判断・表現 西アジアの経済発展に由来する地域外への影響力と地域内の紛争について説明している。 主体的に学習に取り組む態度★ 経済発展の中で変容していく各地域の政策などについて、よりよい課題解決の方法を意欲的に追究している。
－	【自由研究】 日本とアジアの国々とのかかわり	○これまでの学習を振り返り、アジアに関する知識を確認する。	知識・技能 これまでの学習を振り返り、アジアに関する知識を確認している。

<p>【学習のまとめ】 アジア州をふりかえる</p> <p>【アクティビティ】 アジアの経済発展をまとめよう－表づくり－ (教科書P. 56-57)</p>	<p>○各国の経済発展の様子をまとめ、アジアの「追究するテーマ」や地球的課題について考える。</p>	<p>思考・判断・表現 各国の経済発展の様子をまとめ、アジアの「追究するテーマ」や地球的課題について考察し、表現している。</p>
--	--	--

第2節 ヨーロッパ州－国境をこえた統合をテーマに－

学習指導要領の内容：B(2)

第2節の目標	
<p>○ヨーロッパの基礎的・基本的な地域的特色を大観する。</p> <p>○「国境を越えた統合」というテーマの追究を通してヨーロッパの地域的特色を理解する。</p> <p>○地図や諸資料を活用してヨーロッパの地域的特色を理解し、地理的な見方・考え方の定着を図る。</p> <p>【単元を貫く問い】(教科書P. 61「追究するテーマ」) なぜ、ヨーロッパの国々は、国境をこえた統合を進めるようになったのでしょうか。</p>	
<p>第2節の評価規準</p>	<p>知識・技能 ・ヨーロッパの地域的特色を理解しているとともに、地図やグラフ・写真などから適切に読み取っている。</p> <p>思考・判断・表現 ・ヨーロッパの地域的特色を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・ヨーロッパの学習を通じて捉えた課題を解決するためにはどうすべきなのか、自分たちでできることは何かを考えている。</p>

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
－	<p>【導入】 ヨーロッパ州 (教科書P. 58-59)</p>	<p>○ヨーロッパの自然環境や人文環境を大観し、地域的特色を把握する。</p> <p>○ヨーロッパの国境を越えた結び付きがどのようなところからみられるかを捉える。</p>	<p>知識・技能 ヨーロッパの地域的特色を写真や地図からおおまかに捉えている。</p> <p>思考・判断・表現 写真や資料からヨーロッパの国境を越えた結び付きの様子を考察し、簡潔に説明している。</p>
25	<p>1 ヨーロッパの自然環境と人々のかかわり (教科書P. 60-61)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な地形のヨーロッパ ・高緯度で温暖なヨーロッパ ・自然環境のちがいによる多様な生活 	<p>○ヨーロッパを大観し、主な国の名称と位置を知り、地形や気候の違いを理解する。</p> <p>○高緯度での人々の生活に着目し、その地域的な特色を理解する。</p>	<p>知識・技能 ヨーロッパの主な国の名称と位置を理解している。ヨーロッパの地域的特色を大観している。</p> <p>思考・判断・表現 ヨーロッパの自然環境の差異が人々の生活にどのような違いをもたらすかを考察し、説明している。</p>
26	<p>2 国境をこえた統合のあゆみ (教科書P. 62-63)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な民族と共通する文化 ・世界に例のない国境をこえた統合 	<p>○ヨーロッパの主な民族とキリスト教の分布を理解し、その関連に気付くとともに、ヨーロッパの文化がキリスト教と深く結びついていることに気付く。</p>	<p>知識・技能★ ヨーロッパの主な宗教の分布を理解している。EUの成り立ちや拡大について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 統合を進めるEUの理念や現状をアメ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・統合による生活の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次世界大戦後の歴史的背景に気付き、現時点でのEUの概要を把握する。また、EUによる統合がもたらしたメリットを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> リカや中国などと比較しながら、そのメリットを考えている。
27	<ul style="list-style-type: none"> 3 統合による産業の変化と課題 (教科書P. 64-65) ・地域によって異なる農業 ・EUがめざす農業とその課題 ・国境をこえた工業のうごき 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパでは自然環境に応じた特色ある農業が行われていることに気付く。また、EUの共通農業政策が、各国の農業に大きな影響を与えていることを理解する。 ○工業では、国境を越えた協力が行われ、アメリカやアジアの国々に対抗していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能 ヨーロッパの主な農業の特色を理解している。写真やイラストからEU内で工業が分業化されていることを読み取っている。 思考・判断・表現 EU統合による農業の変化、工業の変化について、理由を踏まえて考え、表現している。
28	<ul style="list-style-type: none"> 4 統合による社会の変化と課題 (教科書P. 66-67) ・環境保全による持続可能な社会への取り組み ・環境に配慮した資源・エネルギー政策と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会を目指し、経済的な豊かさだけでなく、都市の景観や商品の安全性・持続性が求められていることを理解する。 ○経済活動に必要な電力や資源・エネルギーについて、ヨーロッパの人々がどのような取り組みをしているのか把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能 ヨーロッパでの持続可能な社会につながる取り組みを理解し、読み取っている。 思考・判断・表現 持続可能な社会につながる取り組みを、自分たちの生活の中から見つけ出し、的確に説明している。
29 30	<ul style="list-style-type: none"> 5・6 移民の増加とゆらぐ統合のうごき (教科書P. 68-69) ・さまざまな人々が住む多文化社会 ・ゆらぐEUの統合 ・統合のかけで進む分離のうごき 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な背景をもった人々が、ヨーロッパ諸国に移り住み、多文化社会が形成されていることを理解する。 ○EUの統合が進む中で、国家の主権を失う懸念をもつ国や、独立や自治権を求める運動が広がるなどの問題が起きていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能★ EUの統合が進むことで、多くのメリットだけでなく、デメリットもあることを読み取っている。 思考・判断・表現★ EU統合がもたらした変化と今後解決すべき課題を考察し、的確に説明している。
	<ul style="list-style-type: none"> 【チャレンジ地理】 ヨーロッパの大国、イギリスのEU離脱問題を考えよう 【学習のまとめ】 ヨーロッパ州をふりかえる (教科書P. 70-71) 	<ul style="list-style-type: none"> ○EU離脱がイギリスにもたらすメリットとデメリットに気付き、イギリスのEU離脱が、ヨーロッパ諸国に大きな影響を与えたことを理解する。 ○EU離脱が、イギリスとEUにどのような影響を与えるのかを賛成派、反対派の意見に基づいて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能 EU離脱によって、様々なメリットとデメリットがあることを読み取っている。 思考・判断・表現★ EU離脱がもたらす変化と今後解決すべき課題を考察し、的確に説明している。

第3節 アフリカ州－自立のための開発と国際協力をテーマに－ 学習指導要領の内容：B(2)

第3節の目標	
<p>○アフリカの基礎的・基本的な地域的特色を大観する。 ○「自立のための開発と国際協力」という主題の追究を通して、アフリカの地域的特色を理解する。 ○地図や諸資料を活用し、アフリカの地域的特色を理解し、見方・考え方の定着を図る。 【単元を貫く問い】（教科書P.75「追究するテーマ」） アフリカは、どのようにしてさまざまな課題を解決し、自立・発展していこうとしているのでしょうか。</p>	
第3節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの地域的特色を、地図・写真・グラフなどから読み取り、理解し、その知識を身に付けている。 ・アフリカが植民地化されていく過程と独立した過程を理解している。また、都市化の影響や現在も残された課題は何かを理解している。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの課題と植民地支配の関連を捉え、その問題点を具体的に指摘し、適切な解決策を提示している。 ・アフリカの課題を多面的・多角的に考察し、それを深刻な問題として捉え、日本を含む国際社会ができることを考えている。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカについてのイメージや既習事項をもとに、学習への意欲を高めている。 ・「自立のための開発と国際協力」という主題を意欲的に追求している。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
－	<p>【導入】 アフリカ州 (教科書P.72-73)</p>	<p>○生徒がもつアフリカのイメージから、アフリカの地域的特色を大観する。 ○日本のアフリカ支援から、「自立のための開発と国際協力」を主題としたアフリカの学習に向けての見通しをもつ。</p>	<p>知識・技能 地図帳などを活用し、自分がイメージした語句がアフリカのどの地域にあてはまるか調べて理解している。 主体的に学習に取り組む態度 写真などから、アフリカについて興味・関心を高め、学習への意欲を高めている。</p>
31	<p>1 アフリカの自然環境と人々のかかわり (教科書P.74-75) ・台地と高原の大陸 ・赤道をはさんで対称的に分布する気候 ・自然環境に適応した農業 ・アフリカの歴史と南北で異なる文化</p>	<p>○アフリカの位置や範囲を理解し、赤道を中心として分布する気候区分の特色や、砂漠や草原などの特徴的な地形について大観する。 ○アフリカの農業の特色を、各地の地形や気候の特色と関連付けながら説明する。</p>	<p>知識・技能 地図・写真・グラフなどを活用し、アフリカの地形と気候の特色を理解し、それぞれの気候帯でどのような農業が行われているか理解している。 主体的に学習に取り組む態度 地形地図、雨温図などの資料をもとに、自然環境などの特色を捉えようとしている。</p>
32	<p>2 農産物や鉱産資源の輸出にたよる経済 (教科書P.76-77) ・輸出用の農産物の生産と食料自給の問題 ・豊富な鉱産資源 ・モノカルチャー経済の克</p>	<p>○アフリカにはどのような商品作物や鉱産資源があるかを具体的に捉え、アフリカの経済が特定の農産物・鉱産物の生産と輸出に頼るモノカルチャー経済になっていることを理解する。</p>	<p>知識・技能★ アフリカの代表的な商品作物や鉱産資源の種類と、それらを生産・輸出している国名を理解している。 思考・判断・表現 モノカルチャー経済の原因を植民地支配との関連から捉え、その問題点を具体</p>

	服をめざして	○モノカルチャー経済の原因と問題点を的確に表現し、その解決策について考える。	的に指摘し、教科書の記述内容を参考にして、適切な解決策を提示している。
33	3 社会・経済の開発や発展と国際協力 (教科書P.78-79) ・若い人々の多さと経済発展 ・民主的な社会の実現に向けた課題 ・さまざまな国際協力の試み	○アフリカで進む都市化が、社会や人々の生活にどのような影響を及ぼしているかを理解する。 ○アフリカに残された課題を適切に捉え、日本を含む国際社会にできることを考える。	知識・技能★ アフリカの都市化の影響や、現在も残された課題は何か、解決のためにこれまでどのような取り組みがなされてきたかを理解している。 思考・判断・表現★ アフリカに残された課題を適切に捉え、日本を含む国際社会にできることを考えている。
—	【自由研究】 アフリカの紛争と私たち 【学習のまとめ】 アフリカ州をふりかえる 【アクティビティ】 アフリカのモノカルチャー経済からの自立に向けてーウェビングマップー (教科書P.80-81)	○レアメタルなどの資源が、新たな紛争につながっている仕組みを理解する。 ○単元の学習内容を振り返り、「自立のための開発と国際協力」という主題で、アフリカの地域的特色を捉える。	知識・技能 地図や表中の空欄に適語を入れて、アフリカの歴史や産業、自立のための開発と国際協力について理解している。 思考・判断・表現 レアメタルなどの資源が、新たな紛争につながっている仕組みを理解し、モノカルチャー経済からの自立について考えている。

第4節 北アメリカ州ー世界に影響をあたえる産業をテーマにー 学習指導要領の内容：B(2)

第4節の目標	
<p>○北アメリカの自然環境や人口、産業の特色を理解し、その知識を身に付ける。</p> <p>○北アメリカの産業が世界に与える影響を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。</p> <p>○北アメリカの地球的課題の一つである持続可能な社会のあり方に対する関心を高め、それを意欲的に追究する。</p> <p>【単元を貫く問い】 (教科書P.85「追究するテーマ」) 北アメリカの国々は、世界にどのような影響をあたえているのでしょうか。</p>	
第4節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカの自然環境や人口、産業の特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・北アメリカの自然環境や人口、産業の特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択し、北アメリカの自然環境や人口、産業の特色について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカの産業が世界に与える影響を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカが地球的課題として取り組む、持続可能な社会のあり方に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	【導入】 北アメリカ州 (教科書P.82-83)	○北アメリカの自然環境や人文環境に関する景観写真を読み取り、北アメリカの地域的な	知識・技能 北アメリカ各地の景観写真の特色を読み取り、地域的な多様性を理解してい

		<p>多様性を理解する。</p> <p>○北アメリカの人々の暮らしが世界に及ぼす影響という観点から単元の追究する課題を捉え、学習への見通しをもつ。</p>	<p>る。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>写真などから、北アメリカについて興味・関心を高め、学習への意欲を高めている。</p>
34	<p>1 北アメリカの自然環境と人々のかかわり (教科書P. 84-85)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図をながめて ・北アメリカの多様な地形と気候 ・北アメリカに住む人々 	<p>○北アメリカの自然環境や人々の生活の特色を主題図から読み取って、いくつかの地域に区分して地域的特色を理解する。</p> <p>○北アメリカを東西南北に地域区分して、それぞれの地形や気候の特色と人口や民族分布の特色を関連付けて考察し、各地域の地域的特色を表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>北アメリカの自然環境や人々の生活の特色を主題図から読み取り、それぞれの地域的特色を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>北アメリカの各地域の地域的特色を自然環境や人々の生活の特色と関連付けて考察し、的確に説明している。</p>
35	<p>2 世界の食糧庫，北アメリカ (教科書P. 86-87)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な農産物の生産 ・適地適作の農業 ・世界を支える北アメリカの農業 	<p>○北アメリカの農業が世界に大きな影響力をもっていることや、北アメリカの自然条件や社会条件から農業の特色を理解する。</p> <p>○北アメリカの農業について、企業的な経営と大量生産の観点から強みと課題とを考察し、地域的特色を捉えて表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>北アメリカの農業が世界に与える影響の大きさを理解し、各農業地域の成立条件を適切に読み取っている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>北アメリカの農業の特色について大量生産と持続可能性の両側面を関連付けて考察し、地域の課題を的確に説明している。</p>
36	<p>3 世界をリードする北アメリカの工業 (教科書P. 88-89)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの工業の歴史 ・変化するアメリカの工業 ・工業からみた北アメリカの結びつき 	<p>○北アメリカの工業が五大湖周辺地域からサンベルトへ展開したことを中心的な工業の種類の変容と結び付けて理解する。</p> <p>○北アメリカの工業の特色を、アジアの工業国や周辺の国々との競合関係や協力関係と関連付けながら考察し、北アメリカの強みや課題を説明する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>北アメリカの工業の地域的展開を中心的な工業の種類の変容と結び付けて理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>北アメリカの工業の特色を地域間の競合関係や協力関係の観点から考察し、適切に表現している。</p>
37	<p>4 世界に影響をあたえるアメリカの文化や企業活動 (教科書P. 90-91)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に広がるアメリカの文化 ・世界をリードするアメリカの多国籍企業 	<p>○自分たちの身近にある多くの文物が、北アメリカから世界に広まったものであることに気づき、北アメリカの多国籍企業が世界において大きな影響力をもっていることを理解する。</p> <p>○北アメリカから世界へ広まった文化や企業活動の特色を考察し、自分たちの生活に引きつけながらその課題を説明する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>自分たちの生活のあり方を通じて、北アメリカの文化や企業活動が世界に大きな影響力をもっていることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★</p> <p>北アメリカから世界に広まった文化や企業活動について、自分たちの生活に引きつけながらその特色や課題を説明している。</p>

38 39	5・6 大量生産・大量消費の生活スタイルと持続可能な社会 (教科書P.92-93) ・自動車社会の生活のようす ・大量生産・大量消費をめぐる問題 ・新たな取り組み	○大量生産・大量消費という北アメリカの人々の生活スタイルは、新たな取り組みを必要としていることを理解する。 ○北アメリカの人々の生活スタイルについて、その課題の解決に向けた方策を考察し、日常の行動を結び付けて説明する。	<u>知識・技能</u> 北アメリカの人々の生活や産業の特色を大量生産・大量消費という概念で捉え、新たな取り組みの必要性を理解している。 <u>思考・判断・表現</u> 北アメリカの人々の生活スタイルの特色を踏まえながら、その課題の解決に向けた方策を考察し、日常の行動と結び付けて説明している。
	【チャレンジ地理】 持続可能な社会をつくるために 【学習のまとめ】 北アメリカ州をふりかえる (教科書P.94-95)	○北アメリカの人々の生活スタイルが広く世界に大きな影響を与え、世界の各地域とつながりをもっていることを理解する。 ○現代の地球的課題の解決に向けた行動について、自分たちの生活の在り方を踏まえながら考えている。	<u>知識・技能★</u> 北アメリカの人々の生活スタイルが広く世界に大きな影響を与え、自分たちの生活ともつながりをもっていることを理解している。 <u>主体的に学習に取り組む態度★</u> 北アメリカの人々の生活スタイルから地球的課題を見出し、その解決の方策を自分たちの生活の在り方を踏まえて考えようとしている。

第5節 南アメリカ州－開発と環境保全をテーマに－

学習指導要領の内容：B(2)

第5節の目標	
	<p>○南アメリカの基礎的・基本的な地域的特色を大観する。 ○「開発と環境保全」という主題の追究を通して、南アメリカの地域的特色を理解する。 ○地図や諸資料を活用し、南アメリカの地域的特色を理解し、見方・考え方の定着を図る。 【単元を貫く問い】(教科書P.99「追究するテーマ」) なぜ、南アメリカの人々は開発を進めるとともに、環境保全の取り組みに努めているのでしょうか。</p>
第5節の評価規準	<p><u>知識・技能</u> ・南アメリカの地域的特色を、地図・写真・グラフなどから読み取り、理解し、その知識を身に付けている。 ・南アメリカの絶え間ない開発と都市化が進んだことで発生した環境問題の理由と課題を理解している。 <u>思考・判断・表現</u> ・人種・民族・言語地図から、国の成り立ちや民族構成が他地域と異なる面について比較し、考察している。 ・開発・環境問題と人々の生活から南アメリカの地域的特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 <u>主体的に学習に取り組む態度</u> ・南アメリカについてのイメージや既習事項をもとに、学習への意欲を高めている。 ・「開発と環境保全」という主題を意欲的に追求している。</p>

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
－	【導入】 南アメリカ州 (教科書P.96-97)	○アマゾンなどの南アメリカの写真から、既習事項を生かして、南アメリカの地域的特色を大観する。	<u>知識・技能</u> 南アメリカ各地の景観写真の特色を読み取り、南アメリカの自然環境・人文環境をおおまかに捉えている。

		○「開発と環境保全」を主題とした南アメリカの学習に向けての見通しをもつ。	主体的に学習に取り組む態度 アマゾン横断道路が建設された後の状況について、既習事項を生かして、意欲的に予想をたてている。
40	1 南アメリカの自然環境と人々のかかわり (教科書P. 98-99) ・長い山脈と大きな川 ・緯度と高度で変化する気候 ・自然環境に応じた人口分布と産業	○地形地図から、南アメリカ大陸が赤道の北から南極大陸近くまで広がり、アンデス山脈やアマゾン川が位置する地形の特色を理解する。 ○南アメリカの国々の農業・鉱業などの特色を、地図や統計資料などの資料から把握する。	知識・技能 南アメリカの国々の主な産業を、地図やグラフなどの資料からおおまかに把握している。 主体的に学習に取り組む態度 地形地図、雨温図などの資料をもとに、自然環境などの特色を捉えようとしている。
41	2 移民の流入と開発による変化 (教科書P. 100-101) ・南アメリカの歴史 ・多様な民族と文化 ・たえ間ない開発による生活への影響	○ヨーロッパの植民地となったことで、民族、文化、産業にどのような変化(影響)があったのかを、具体的に理解する。 ○絶え間ない開発によって発生している問題を理解するとともに、環境保全が必要な理由について考える。	知識・技能★ 絶え間ない開発の現状と、それに伴う課題を理解している。 思考・判断・表現 人種・民族・言語地図から、国の成り立ちや民族構成が他地域と異なる面について考察している。
42	3 世界規模の環境問題と改善に向けた取り組み (教科書P. 102-103) ・大規模で急速な開発による環境問題 ・熱帯雨林を守る取り組み ・環境に配慮した新しい取り組み	○アマゾン川流域の開発の現状とそれに伴う課題を理解するとともに、環境保全が必要な理由を考える。 ○バイオ燃料や、持続可能な開発が注目されている理由を、環境問題との関係から考える。	思考・判断・表現 バイオ燃料を用いた自動車が普及している理由や、そのために生じる課題について考察している。 主体的に学習に取り組む態度★ 写真やグラフなどの資料から、熱帯雨林の減少とそこから生じる問題点について、意欲的に追究している。
—	【自由研究】 地球温暖化を防ぐために 【学習のまとめ】 南アメリカ州をふりかえる 【アクティビティ】 自然環境に配慮した観光客の誘致—キャッチフレーズづくり— (教科書P. 104-105)	○地球温暖化の防止の取り組みについて、先進国と発展途上国の立場の違いを理解し、世界全体でどのようにすればよいか、考える。 ○単元の学習内容を振り返り、「開発と環境保全」という主題から南アフリカの地域的特色を捉える。	知識・技能 地図や表中の空欄に適語を入れて、南アメリカの自然環境や産業、開発と環境保全の取り組みについて理解している。 思考・判断・表現 地球温暖化の防止の取り組みについて、先進国と発展途上国の立場の違いを理解し、世界全体でどのようにすればよいか、考えている。

第6節の目標	
<p>○オセアニアの基礎的・基本的な地域的特色を大観する。 ○オセアニアの歴史的視点から、多様な文化をもって生活している地域的特色を理解する。 ○地図や資料・写真などを通して、オセアニアの多文化共生に向けた課題を捉え、地理的な見方・考え方の定着を図る。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.109「追究するテーマ」） 世界各国から移り住んだ人々は、以前から住んでいた人々とどのように共存しているのでしょうか。</p>	
第6節の 評価規 準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オセアニアの自然環境を把握し、そこに住む人々の生活を理解している。 ・オセアニアの歴史的視点から様々な資料を活用して、先住民と移民からなる多文化社会であることを理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オセアニアと他地域との結び付きの変化の理由と現状を把握している。 ・「多文化が共生する社会」という主題を基に、多文化共生社会の在り方について多面的・多角的に考察している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オセアニアの地域的特色に関心を高め、日本だけでなく他地域との結び付きについて意欲的に学習に取り組もうとしている。 ・「多文化が共生する社会」という主題を意欲的に追究している。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】 オセアニア州 (教科書P.106-107)</p>	<p>○写真や地図、グラフを活用し、オセアニアの位置や自然環境・文化・産業・人々の暮らしを大観する。 ○オセアニアについて興味・関心を高める。</p>	<p>知識・技能 オセアニアの位置について世界地図などを活用して確認し、他地域とのつながりを理解している。 主体的に学習に取り組む態度 写真やグラフなどの資料を活用して、伝統的な文化や現代的な文化の共生に興味・関心をもち、追究している。</p>
43	<p>1 オセアニアの自然環境と人々のかかわり (教科書P.108-109)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア大陸と太平洋の島々 ・自然環境のちがいによる多様な生活 ・自然環境を生かした産業 	<p>○オセアニアの地形や気候の特色を、地図や雨温図から読み取り、自然環境の基礎的事項を理解する。 ○オセアニアの自然環境とそれを生かした産業を関連付けることによって、人々の暮らしを考え、説明する。</p>	<p>知識・技能 オセアニアの地形や気候の特色を、地図や雨温図などから理解している。 思考・判断・表現 オセアニアの地形や海洋の様子・気温・降水量などの自然環境と産業の関連付けて考え、説明している。</p>
44	<p>2 多様性を認める社会づくりを進めるオセアニア (教科書P.110-111)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多民族国家のオーストラリア ・白豪主義から多文化社会へ ・多様な民族の共生 	<p>○オーストラリアを焦点に、イギリスを中心とするヨーロッパからの移民や、現在ではアジアとの結び付きが強まり、先住民との共生など多文化社会に変遷していく過程を理解する。 ○先住民への迫害やアジア人の排斥があったオセアニアが、</p>	<p>知識・技能★ 歴史的視点から、オセアニアが多文化社会に変遷していく過程を理解している。 思考・判断・表現★ オセアニアが多文化社会を実現していくための取り組みを考察し、それをまとめている。</p>

		現在多文化社会を実現していくための取り組みを進めていることについて考察する。	
45	<p>3 太平洋の島々の多様な文化と自然環境 (教科書P. 112-113)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋の島々の文化 ・深刻化する環境問題 ・増えるアジアからの観光客 	<p>○オーストラリアやニュージーランドだけでなく、太平洋の島々が多様な文化をもちながら、他地域との結び付きを強めようとしている現状と課題を考察する。</p> <p>○地球温暖化による海面上昇問題や他地域からの観光問題を、太平洋の島々だけの問題ではなく、他の地域との関係ひいては地球全体の課題として考察する。</p>	<p>思考・判断・表現 太平洋の島々の自然環境や文化を通して、環境問題や観光問題について考えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度★ 多文化共生社会をめざすオセアニアが、環境問題や観光問題を通して、他の地域とのつながりを深めようとしていることを追究している。</p>
—	<p>【自由研究】 アジアの国々や日本との結び付き</p> <p>【学習のまとめ】 オセアニア州をふりかえる</p> <p>【アクティビティ】 私たちのまわりの多文化共生を考えようー発見学習・調べ学習ー (教科書P. 114-115)</p>	<p>○オセアニアとアジア、特に日本との結び付きについて考察する。</p> <p>○オセアニアの地域的特色を確認する。</p>	<p>知識・技能 他地域との結び付きに着目しながら、オセアニアの地域的特色を理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 他地域との結び付きの変化から、多面的・多角的にオセアニアを追究しようとしている。また世界と日本との結び付きを追究している。</p>

第3編 日本のさまざまな地域

第1章 地域調査の手法—京都市伏見区を例に—

学習指導要領の内容：C(1)

第1章の目標	
<p>○身近な地域に対する理解を深め、身近な地域の調査を行う際のテーマ設定の視点や調査方法、まとめ方を身に付ける。</p> <p>○地形図の決まりや仕組み、グラフの使い分けを理解して、調査結果や収集した資料などの情報を分析し、有効に活用する。</p> <p>○もっている知識や生活体験と調査結果をもとに、地域の課題を考察し、興味・関心に基づいて身近な地域の調査のテーマを設定する。</p> <p>○調査結果を整理してまとめ、分かりやすく発表する。</p> <p>○身近な地域の調査活動や調査結果のまとめ、発表に意欲的に取り組むことで、身近な地域の地域的特色や課題について追究していく態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.119「追究するテーマ」） 身近な地域で疑問に思ったことや調べてみたいことは、どのように調査していけば解決できるのでしょうか。</p>	

第1章の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の自然環境、人口、産業、交通、文化、伝統などの基礎的、基本的な知識を身に付けている。 ・身近な地域の調査を行うテーマ設定の視点や調査の方法を身に付けている。身近な地域に関する様々な資料を収集し、地域的特色についての情報を適切に読み取っている。 ・地形図の決まりや仕組み、グラフの特色を身に付け、読み取った情報を、地図やグラフなどを用いて適切にまとめている。まとめの基本的な構成や文章の記述方法を習得している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の地域的特色を捉える適切な調査のテーマを設定し、身近な地域の課題を見出だしている。 ・身近な地域の調査を行うテーマ設定の視点をもとに、地域的特色を多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域に対して関心をもって調査し、地域的特色を意欲的に追究している。 ・調査のテーマを適切に設定し、方法を工夫して調査を行い、調査結果のまとめ、発表に意欲をもって取り組んでいる。
----------	--

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
46 47	<p>1・2 身近な地域を見直そう (教科書P.120-121)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域を高いところから見る ・身近な地域の特色をつかむ 	<p>○身近な地域の地域的特色を、空中写真や眺望からの気付きと既存の知識や生活体験を関連付けて捉える。</p> <p>○地域の特色をつかむための視点を踏まえて、身近な地域の地域的特色から取り上げた内容を整理する。</p>	<p>知識・技能 身近な地域にある建物や景観を、自然環境や人々の活動と結び付けて地域的特色として説明している。</p> <p>思考・判断・表現 気付いたことや疑問に思ったことを、地域の特色をつかむための視点に照らして分類している。</p>
	<p>【スキルアップ】 地形図のしくみと約束を知る・デジタル地図にふれてみよう・地形図を身近な地域の調査に役立てる (教科書P.122-125)</p>	<p>○地形図の決まりや仕組みを理解して、記載された情報を読み取る。</p> <p>○新旧の地形図を比較したり、断面図や土地利用図を作成したりする。</p>	<p>知識・技能★ 方位や縮尺、等高線、地図記号の決まりや仕組みを理解して、地形図から情報を読み取っている。</p> <p>思考・判断・表現 地形図から必要な情報を選択して取り</p>

			出し、目的に合う別の図を作成している。
48	3 調査テーマを決めて調査計画を立てよう (教科書P.126-127) ・調べたいことをまとめ、調査テーマを決定する ・調査計画を立てる	○関連図を作成するなどして、適切な調査テーマを話し合いながら決定する。 ○テーマを追究するために必要な情報を入手できる調査について、無理のない計画を作成する。	思考・判断・表現 調査テーマに迫るために有効な調査方法を考え、無理なく実行できる調査計画を作成している。 主体的に学習に取り組む態度★ 調査テーマを決定する活動に意欲的に参加し、話し合いに積極的に取り組んでいる。
49 50	4・5 調査を進めよう (1) (教科書P.128-129) ・実際に歩いて野外観察をする ・地域の人に聞き取り調査をする	○地形図をもとに現地を観察し、観察から得た情報を適切に記録する。 ○必要な情報をもっている調査対象となる人々を選定し、マナーに気を配りながら聞き取りを行う。	知識・技能 地域の人々から必要な情報を入手するために、マナーに気を配りながら聞き取り調査を行っている。 思考・判断・表現 地形図から調査対象のある場所を判断して現地に行き、スケッチや録画などの適切な方法を用いて記録している。
	4・5 調査を進めよう (2) (教科書P.130-131) ・文献資料を使って調査する ・統計資料を使って調査する	○文献資料や統計資料の入手先と入手方法を理解し、適切に活用する。 ○入手した文献資料や統計資料から必要な情報を取り出し、野外調査の成果と関連付けて整理する。	知識・技能 入手した文献資料や統計資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどに加工している。 思考・判断・表現 文献資料や統計資料を分析し、野外調査の成果との関連から調査結果の正当性を判断している。
	【スキルアップ】 ハザードマップの使い方 ①・地図のつくり方・グラフのつくり方 (教科書P.132-133)	○ルートマップや円グラフ、折れ線グラフなどを正確に作成する。 ○調査結果を分かりやすく表現するために、適切な方法を選択する。	知識・技能★ 必要な情報を書き込んだ地図や調査結果を表したグラフを、正しく作成している。 思考・判断・表現 調査結果を分かりやすく伝えるために、相手を意識して適切な表現方法を選択している。
51 52	6・7 調査結果をもとに考察してまとめ、発表しよう (教科書P.134-135) ・調査結果をもとに考察してまとめよう ・調査のまとめを発表しよう	○調査結果が意味していることを分析し、その要因や原因をまとめる。 ○友達の発表内容を理解して質問をしたり、友達の質問に答えたりしながら、地域の特色をより深くつかむ。	知識・技能 友達の発表に対して根拠をもった質問をしたり、友達の質問内容を把握して的確な回答をしたりしている。 思考・判断・表現★ 調査結果のもつ傾向を分析し、その要因や原因を、筋道を立てて説明している。
	【スキルアップ】 調査結果のまとめ方 (教科書P.136-137)	○調査結果のまとめを作成する際に、必要な記事項や効果的な記載方法を理解する。 ○調査結果のまとめを全体像として捉え、見やすさや分かりやすさ、印象の強さを意識して構成する。	知識・技能 調査結果のまとめに用いる情報によって、どのような事項を記載するべきかを把握している。 思考・判断・表現★ 調査結果をより効果的に伝えるために、何を重視するかを明らかにしてまと

		め全体を構成している。
--	--	-------------

第2章 日本の地域的特色と地域区分

学習指導要領の内容：C(2)

第2章の目標	
	<p>○日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色とそれに基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解する。</p> <p>○日本全体の主題図やグラフなどを、共通点や差異、分布の傾向性などに着目して読み取ったり作成したりするなどして地域区分をする技能を身に付ける。</p> <p>○日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目による地域区分を、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目し、比較したり関連付けたりして考察し、その結果を表現する。</p> <p>○日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色と、各項目による地域区分に関心をもち、日本の地域的特色を意欲的に追究するとともに、各項目に関わる課題を解決しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 日本にはどのような地域的特色があって、どのように地域区分できるのでしょうか。</p>
第2章の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色とそれに基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解している。 日本全体の主題図やグラフなどを、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目して読み取ったり作成したりするなどして地域区分をしている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目による地域区分を、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目し、比較したり関連付けたりして考察し、その結果を表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色と、各項目による地域区分に関心をもち、日本の地域的特色を意欲的に追究するとともに、各項目に関わる課題を解決しようとしている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
53	<p>1 地形からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.140-141)</p> <ul style="list-style-type: none"> 背骨のようにつらなる山地 山と川がつくる多様な地形 変化に富む海岸 地形からみた日本の地域区分 	<p>○日本は環太平洋造山帯に属することや、山地・山脈は東日本では南北方向に、西日本では東西方向に連なっていること、これらの間を流れる河川によって形成された平野や盆地は小さく、点在していることを理解する。</p> <p>○教科書や地図帳などを活用して主な山地・山脈や平野などの位置や名称を調べ、それらを白地図に表す。</p>	<p>知識・技能</p> <p>日本列島を背骨のように走る山地・山脈、点在する小さな平野、複雑な海岸線など、日本の地形の特色を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主な山地・山脈や平野、河川などの位置や名称を、白地図に表している。</p>
54	<p>2 気候からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.142-143)</p> <ul style="list-style-type: none"> 四季の変化がはっきりした気候 	<p>○日本は、平均気温の高低や年較差、月別降水量の多少により、おおよそ六つの気候に区分できること、そうした気候の違いは、緯度のほかに季節</p>	<p>知識・技能</p> <p>日本の気候は、おおよそ六つに区分できることと、違いを生じさせる要因について理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 降水量の多い気候 気候からみた日本の地域区分 	<p>風や梅雨，台風，地形などの影響によって生じることを理解する。</p> <p>○気温の高低や推移，降水量の多少や推移に着目して，日本各地の雨温図の特色を読み取り，自分の言葉で説明する。</p>	<p>日本の各地方の雨温図の特色について，気温の高低や推移，降水量の多少や推移に着目して，自分の言葉で説明している。</p>
55	<p>3 地震・火山災害からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.144-145)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震や津波による災害 火山の噴火による災害 地震・火山災害からみた日本の地域区分 	<p>○日本は環太平洋造山帯に属しており，地震・火山災害が起きやすいこと，地震災害や火山災害の起きやすさには地域差があることを理解する。</p> <p>○震源地や火山の分布図，地図帳から，地震（震源）の発生や火山が多い地域を読み取り，その特色を自分の言葉で表現する。</p>	<p>知識・技能 日本で地震・火山災害が起りやすい理由と，それらの起りやすさには地域差があることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 震源地や火山の分布図，地図帳から，地震の発生や火山が多い地域を読み取り，その特色を自分の言葉で表現している。</p>
56	<p>4 気象災害からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.146-147)</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな気象災害 自然災害と人災 気象災害からみた日本の地域区分 	<p>○日本は国土が山がちで河川の勾配が急である上に，梅雨や台風による大雨や冬季の大雪などがあって，様々な気象災害が起こることや，各気象災害の起りやすさには地域差が見られることを理解する。</p> <p>○風水害や雪害，干害などの気象災害が起こる原因を，日本の地形の特色や気候の特色と関連付けて考える。</p>	<p>知識・技能 日本で様々な気象災害が起こる原因と，気象災害の種類によって起りやすさに地域差があることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 日本で様々な気象災害が起こる原因を，日本の地形や気候の特色に着目して考察している。</p>
57 58	<p>5・6 災害にそなえるために (教科書P.148-149)</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災・減災へのくふう どのように災害と向き合うか 	<p>○日本や身近な地域において，様々な自然災害を想定して防災や減災の取り組みが行われていることを理解する。</p> <p>○釜石における減災の成果を読み取って，地域に関する正しい知識と訓練に基づく減災の取り組みの意味や意義を考察する。</p>	<p>知識・技能 日本や身近な地域の自然災害に対する防災や減災の取り組みの要点を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 釜石における事例を通して，地域に関する正しい知識と訓練に基づく減災の取り組みの意味や意義を考察し，的確に説明している。</p>
	<p>【自由研究】 「釜石の奇跡」はなぜ起こったのか</p> <p>【チャレンジ地理】 ハザードマップをより深く知り，使うために (教科書P.150-151)</p>	<p>○身近な地域において，取り組まれている防災や減災の現状や課題を理解する。</p> <p>○ハザードマップを活用して身近な地域の防災や減災の意義や課題を考察し，自らそれに参加しようという意欲を高める。</p>	<p>知識・技能★ 身近な地域のハザードマップを活用して，防災や減災の取り組みの要点を読み取り，理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度★ 身近な地域における，減災の取り組みの意味や意義を踏まえて，防災や減災に関わる諸活動に参加しようとする意欲を高めている。</p>
59	<p>7 人口からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.152-153)</p>	<p>○日本の人口構成と人口分布について変化の傾向を読み取って，人口からみた日本の地域</p>	<p>知識・技能 日本の人口構成と人口分布の変化の様相を読み取って，理解している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少と少子高齢化 ・人口分布のかたよりと課題 ・人口からみた日本の地域区分 	<p>的特色を理解する。</p> <p>○日本の人口問題について、過疎・過密地域の地域的課題と関連させて考察して、地域的特色を説明する。</p>	<p>思考・判断・表現★</p> <p>日本の人口からみた地域的特色を、過疎・過密地域の地域区分を踏まえて考察し、的確に説明している。</p>
60	<p>8 資源・エネルギーからみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.154-155)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉱産資源を外国に依存する日本 ・資源を確保するために ・環境問題への取り組み ・資源・エネルギーからみた日本の地域区分 	<p>○日本は資源にめぐまれていないため、大部分を輸入に依存しながら大量消費をしていることを理解する。</p> <p>○資源の大量消費によって起きている問題を、環境と生産の面から捉える。</p>	<p>知識・技能</p> <p>日本がどのくらいの資源を消費しており、そのうちのどの程度を輸入に依存しているかを、輸入先とともに理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>日本の生活や産業を支える資源の大量消費がどのような問題を引き起こし、それに対してどのような取り組みをしているかを考察している。</p>
61	<p>9 産業からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.156-159)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を利用する第1次産業－農業－ ・自然環境を利用する第1次産業－漁業－ ・資源を使って製品を作る第2次産業 ・流通やサービスにかかわる第3次産業 ・産業からみた日本の地域区分 	<p>○太平洋ベルトをはじめ、日本にどのような産業が盛んな地域があるかを捉える。</p> <p>○日本では、自然的・社会的条件によって産業の地域的分業が進んでいることに気付く。</p>	<p>知識・技能★</p> <p>日本のそれぞれの産業がどのような地域で盛んに行われているか整理してつかんでいる。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>それぞれの地域がもつ自然的・社会的条件と、その地域で発達している産業との関連を多面的に分析して説明している。</p>
62	<p>10 交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分 (教科書P.160-161)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界を結ぶ交通網 ・国内の交通網の発達と生活の変化 ・交通網の発達と生活の変化 ・交通・通信からみた日本の地域区分 	<p>○日本全体で整備された交通網が高速化して再構成されていること、情報通信ネットワークが確立されていることを理解する。</p> <p>○交通網の発達によって国内各地の時間的距離がどのくらい短縮され、どのような影響をもたらしているかを考察する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>日本全体の交通網の高速化や、情報通信ネットワークの確立を、年代を追った地図の変化からつかんでいる。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>交通網の高速化がもたらした時間的距離の短縮が、どのくらいの短縮でどのような影響が表れるのかを具体的に想定している。</p>

第3章 日本の諸地域

第3章の目標	
	<p>○九州地方，中国・四国地方，近畿地方，中部地方，関東地方，東北地方，北海道地方の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解する。</p> <p>○日本の各地方に考察の仕方を設定し，地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現する。</p> <p>○日本の諸地域について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる地域の課題を主体的に追究する。</p>
第3章の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地方の地域的特色や地域の課題を理解している。 ・各地方の考察の仕方を取り上げた特色ある事象と，それに関連する他の事象や，そこで生ずる地域の課題を理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域において，それぞれ各地方の考察の仕方でもつ中核となる事象の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる地域の課題を主体的に追究しようとしている。

第1節 九州地方－自然環境をテーマに－

学習指導要領の内容：C(3)

第1節の目標	
	<p>○九州地方は，台風や梅雨，火山活動による災害を受けやすい反面，温暖な気候や温泉，美しい景観などに恵まれ，これらを生かして人々の生活・産業が営まれていることや，こうした産業や地域の振興・発展と環境保全との両立が課題となっていることを理解する。</p> <p>○九州地方における自然環境と人々の生活・産業との関わりや，産業や地域の振興・発展と環境保全の両立に向けた取り組みを，火山活動や気候や景観，地域の歴史や文化，交通網の発達，公害克服への努力などと関連付けて考察し，その結果を白地図や文章などに表現する。</p> <p>○九州地方における自然環境と人々の生活・産業との関わりや環境保全に向けた取り組みに対する関心を高め，それらを意欲的に追究するとともに，産業や地域の振興・発展と環境保全の両立という課題を解決していこうとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.167「追究するテーマ」）</p> <p>九州地方では，自然環境をどのように生かして生活していて，環境保全にかかわるどのような課題があるのでしょうか。</p>
第1節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方は，台風や梅雨，火山活動による災害を受けやすい反面，温暖な気候や温泉，美しい景観などに恵まれ，これらを生かして人々の生活・産業が営まれていることや，こうした産業や地域の振興・発展と環境保全との両立が課題となっていることを理解している。 ・九州地方の自然環境や人々の生活・産業，環境保全に関わる写真や統計，パンフレットなど様々な資料を収集し，有用な情報を読み取ったりまとめたりしている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方における自然環境と人々の生活・産業との関わりや，産業や地域の振興・発展と環境保全の両立に向けた取り組みを，火山活動・気候や景観，地域の歴史や文化，交通網の発達，公害克服への努力などと関連付けて考察し，その結果を白地図や文章などに表している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方における自然環境と人々の生活・産業との関わりや環境保全に向けた取り組みに対する関心を高め，それらを意欲的に追究するとともに，産業や地域の振興・発展と環境保全の両立という課題を解決していこうとしている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	【導入】 九州地方 (教科書P.164-165)	○九州地方の自然環境や人々の生活、地域の課題などに対する興味・関心と学習意欲を高める。 ○写真を見たりキャプションを読んだりして、自然環境や人々の生活に関わる疑問や調べてみたいことを見出だす。	知識・技能 九州地方の県や人口、人々の生活・産業などの様子をおおまかに捉えている。 主体的に学習に取り組む態度 写真を見たりキャプションを読んだりして、九州地方の自然環境や人々の生活・産業などに関わる疑問や調べてみたいことを意欲的に見出だし、話し合っている。
63	1 九州地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.166-167) ・九州地方の地形と人口分布 ・温暖で雨の多い九州地方の気候	○九州地方の位置や広がり、地形や気候の特色、自然環境を生かした人々の生活のあらましを理解する。 ○九州地方の自然環境と人々の生活・産業との関わり、環境保全に関わる課題を追究することへの意欲を高める。	知識・技能 九州地方の位置や広がり、地形や気候の特色、人々の生活のあらましを理解している。九州地方の地形地図と人口密度の分布図、雨温図と景観写真を関連付けて読み取っている。 主体的に学習に取り組む態度 単元の追究するテーマに関心を持ち、自然環境と人々の生活・産業との関わり、環境保全に関わる課題の追究に対する意欲を高めている。
64	2 自然環境に影響を受ける人々の生活 (教科書P.168-169) ・火山と人々の生活 ・火山活動を自然のめぐみとして生かす ・気候と人々の生活	○九州地方の人々の生活は、火山活動や台風、梅雨による大雨などの自然環境と密接に関わりながら営まれていることを理解する。 ○九州地方の自然環境が人々の生活にもたらす正負の面を、写真や新聞記事などを活用して多面的・多角的に考察し、表現する。	知識・技能★ 九州地方の人々の生活は、火山活動や温暖な気候と関わりながら営まれていることを理解している。 思考・判断・表現 九州地方の自然環境が人々の生活にもたらすメリット・デメリットを、写真や新聞記事から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。
65	3 自然環境の特色を生かした農林水産業 (教科書P.170-171) ・九州北部の稲作 ・九州南部の畜産業と園芸農業 ・過疎化の影響と農業	○九州地方では、気候や地形、消費地からの距離などの自然環境を生かすとともに、交通の発達、灌漑施設の整備などにより、北部と南部で、それぞれ特色のある農業が営まれていることを理解する。 ○九州地方の北部と南部の農業の特色を生み出したり、九州地方の漁業が盛んであったりする理由を、自然的条件と社会的条件の両面から考える。	知識・技能 九州地方の北部と南部の農業の特色を理解している。 思考・判断・表現★ 九州地方の北部と南部、それぞれの農業の特色を生み出している理由を、地形や気候、交通網や消費地との距離などと関連付けて考察している。
66	4 自然環境を生かした南西諸島の観光業 (教科書P.172-173) ・自然環境を生かした観光	○南西諸島では、美しい自然と温暖な気候、大陸との交流により形成された独自の文化によって観光業が発展している	知識・技能 沖縄で観光業が発展している理由と、観光業と環境保全の両立を目指した取り組みが行われていることを理解してい

	業 ・沖縄の歴史と独自の文化 ・環境保全と観光の両立をめざして	こと、観光業と環境保全の両立を目指した取り組みが行われていることを理解する。 ○南西諸島で観光業が発展している理由を、自然的条件と社会的条件から考える。	る。 思考・判断・表現 沖縄で観光業が発展している理由を、気候や景観、独自の歴史や文化、交通網の発達などと関連付けて考察している。
67	5 工業の変化と自然環境の保全 (教科書P.174-175) ・北九州工業地帯の発展と公害 ・変わる九州地方の工業 ・世界の環境首都をめざす北九州市	○北九州市や水俣市などでは、持続可能な社会の実現に向け、公害を克服した経験を生かして先進的な取り組みが行われていることを理解する。 ○九州地方で盛んな工業が、北九州工業地帯を中心とした金属工業や化学工業から、自動車やI C (集積回路) などの機械工業に変わってきていることと、その理由を多面的・多角的に考察し、表現する。	知識・技能★ 北九州市や水俣市などでは、環境保全のために先進的な取り組みが行われていることを理解している。 思考・判断・表現★ 九州地方で盛んな工業が、金属や化学から機械に変わってきていることと、その理由を多面的・多角的に考察し、表現している。
—	【自由研究】 温暖な気候を生かしたプロ野球のキャンプ 【学習のまとめ】 九州地方をふりかえる 【アクティビティ】 自然環境を保全しながら観光業を発展させようーダイヤモンドランキングー (教科書P.176-177)	○九州地方の自然環境と人々の生活・産業との関わりや環境保全の取り組みについて理解を深める。 ○自然環境の保全と観光業の発展・地域の振興を両立させるための工夫を考える。	思考・判断・表現 自然環境の保全と観光業の発展・地域の振興を両立させるための工夫を考えている。 主体的に学習に取り組む態度 自然環境の保全と観光業の発展・地域の振興を両立させていこうとする意識と意欲を高めている。

第2節の目標	
<p>○中国・四国地方の基礎的・基本的な地域的特色を大観する。</p> <p>○「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に、様々な事象を有機的に関連付けて追究し、中国・四国地方の地理的特色を捉える。</p> <p>○地図・グラフ・写真などの資料を活用し、地理的な見方・考え方を働かせ、中国・四国地方の地域的特色を捉える。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.181「追究するテーマ」）</p> <p>中国・四国地方の人口や都市・村落にはどのような課題があり、解決に向けてどのような取り組みが行われているのでしょうか。</p>	
第2節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な資料から、地域ごとの人口の増減の様子やその要因を適切に読み取り、中国・四国地方の地域的特色を「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に理解し、その知識を身に付けている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の地域的特色を、「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察している。 中国・四国地方の地域的特色を考察した過程や結果を図や文章などに適切にまとめている。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方を「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に、地域にみられる地理的事象や事柄を意欲的に追究している。 中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】</p> <p>中国・四国地方 (教科書P.178-179)</p>	<p>○写真などから、中国・四国地方の自然環境や農業、人々の様子を読み取り、中国・四国地方の地域的特色を大観する。</p> <p>○中国・四国地方について興味・関心を高め、学習への意欲をもつ。</p>	<p>知識・技能</p> <p>中国・四国地方の人口、人々の生活・産業などの様子をおおまかに捉えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>写真などから、中国・四国地方について興味・関心を高め、学習への意欲を高めている。</p>
68	<p>1 中国・四国地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.180-181)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の三つの地域 山陰の地形・気候と人口の分布 瀬戸内の地形・気候と人口の分布 南四国の地形・気候と人口の分布 	<p>○中国・四国地方の地形的特色を捉え、理解する。</p> <p>○中国・四国地方の人口分布の特色を、気候や地形から考察し、理解する。</p> <p>○山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域の気候の特色を中国山地・四国山地と季節風の関係から考察し、理解する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>中国・四国地方の地形・気候の特色や人口分布の特色を、山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域に分けて理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>中国・四国地方に関する資料を活用しながら、地方の地域的特色を意欲的に捉えようとしている。</p>
69	<p>2 人口分布のかたよりと人々の生活 (教科書P.182-183)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口が集中する瀬戸内 	<p>○中国・四国地方の三つの地域における人口分布の特色を理解する。</p> <p>○人口分布の偏りがある原因</p>	<p>知識・技能★</p> <p>中国・四国地方の山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域における人口分布の特色を理解している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化の進む地域の現状 	<p>は、三つの地域と他地域との間に人やもののどのような結びつきがあるからなのかを考察し、捉える。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>中国・四国地方の三つの地域の人口分布の偏りとその原因に着目し、他地域との人やものの結びつきの様子を考察し表現している。</p>
70	<p>3 都市部や農村部を結ぶ交通網 (教科書P.184-185)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西を結ぶ交通網の整備と地域の変化 ・南北を結ぶ交通網の整備と地域の変化 ・交通網の整備による光と影 	<p>○中国・四国地方の各地域に交通網がどのように整備されているのかを理解する。</p> <p>○中国・四国地方の交通網の整備が、人口の変化や地域社会にどのような変化をもたらしたのかを考え、その原因とともに表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>中国・四国地方の各地域に交通網がどのように整備されているか、結ばれている都市やルートなどを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★</p> <p>交通網の整備により地域社会に生まれた変化とその原因を、成果と課題の両面から考え表現している。</p>
71	<p>4 地域に根ざした農業と作り手の人々 (教科書P.186-187)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を生かした中国・四国地方の農業 ・農産物を活用した地域活性化 ・農産物・水産物の輸送手段の変化 	<p>○中国・四国地方の農業の特色を、地形や気候とのかかわりから理解する。</p> <p>○交通網を利用し、中国・四国地方の農家の人々がどのような工夫をして農産物の生産や販売を行い、地域活性化を図っているのかを考え表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>中国・四国地方の農業の特色を資料などから理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現★</p> <p>交通網を利用し、人々がどのような工夫をして農産物の生産・販売を行い、地域活性化を図っているのかを考え表現している。</p>
72	<p>5 豊かな魅力を生かした地域活性化 (教科書P.188-189)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を生かした地域活性化 ・農村と都市の交流による地域活性化 	<p>○過疎地域の地域活性化の取り組みを通して、「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に、中国・四国地方の地域的特色をつかむ。</p> <p>○中国・四国地方の過疎地域が地域資源を生かし、どのようにして地域づくりを進めているか考察し、その取り組みが人々の暮らしを豊かにしていることを表現する。</p>	<p>知識・技能★</p> <p>過疎地域の地域活性化の取り組みを通して、「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に、中国・四国地方の地域的特色を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>中国・四国地方の過疎地域の地域づくりの取り組みの様子や成果を表現している。</p>
—	<p>【自由研究】</p> <p>巨大地震にそなえる過疎地域の取り組み</p> <p>【学習のまとめ】</p> <p>中国・四国地方をふりかえる</p> <p>【アクティビティ】</p> <p>地域活性化の取り組みを分析しようー関係図づくりー</p> <p>(教科書P.190-191)</p>	<p>○中国・四国地方の防災面での課題や、防災・減災への取り組み、「防災産業」と地域活性化との関わりについて理解する。</p> <p>○自分たちの地域の防災や減災について関心を持ち、防災意識を高める。</p>	<p>知識・技能</p> <p>南海トラフの巨大地震など、中国・四国地方の防災面での課題や、防災や減災への取り組み、「防災産業」と地域活性化との関わりについて理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>自分たちの地域の防災や減災について関心を持ち、防災意識を高めている。</p>

第3節の目標	
<p>○近畿地方の自然環境から、北部・中部・南部の三つの地域の地域的特色をつかむ。</p> <p>○近畿地方の歴史的背景から、歴史の中で培われた文化や産業とともに生活している地域的特色を理解する。</p> <p>○地図や資料・写真などを通して、近畿地方の現状や課題を捉え、地理的な見方・考え方の定着を図る。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.195「追究するテーマ」）</p> <p>近畿地方の古くからの歴史は、人々の生活にどのような影響をあたえているのでしょうか。</p>	
第3節の 評価規 準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の自然環境を把握し、そこに住む人々の生活を理解している。 ・近畿地方の歴史的背景から、様々な資料を活用して、産業やそこに住む人々の生活を理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方と他の地方や世界との結び付きの現状と課題を把握している。 ・近畿地方を「歴史的背景」を中核とした考察の仕方を基に、これからの近畿地方の在り方について多面的・多角的に考察している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の地域的特色に関心を高め、日本だけでなく外国との結び付きについて意欲的に学習に取り組もうとしている。 ・近畿地方を「歴史的背景」を中核とした考察の仕方を基に意欲的に追究している。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
－	<p>【導入】</p> <p>近畿地方 (教科書P.192-193)</p>	<p>○「歴史的背景」を中核にした考察の仕方を基に、日本だけでなく外国との結び付きの中で、今後の近畿地方の学習内容を理解する。</p> <p>○写真やグラフなどの資料を活用して、今後の近畿地方の学習に興味・関心をもつ。</p>	<p>知識・技能</p> <p>「歴史的背景」を中核にした考察の仕方を基に、日本だけでなく外国との結び付きの中で、今後の近畿地方の学習内容を理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>写真やグラフなどの資料を活用して、今後の近畿地方の学習に興味・関心をもっている。</p>
73	<p>1 近畿地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.194-195)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部の平地と南北の山地 ・三つの地域で異なる気候 ・自然環境と人々の生活 	<p>○近畿地方の地形図や雨温図などを活用し、三つの地域の特徴を理解する。</p> <p>○近畿地方の自然環境や歴史的背景を踏まえ、それぞれの地域に住む人々の特色ある生活に気付く。</p>	<p>知識・技能</p> <p>近畿地方の自然環境から、三つの地域に分けられ、それぞれ特色があることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>近畿地方の三つの自然環境の違いや歴史的背景から地域の人々の生活を考察し、それぞれ特色ある生活を営んでいることに気付いている。</p>
74	<p>2 現在にいきづく歴史的都市の特徴 (教科書P.196-197)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな歴史に支えられた近畿地方 ・千年の歴史をもつ京都 ・日本の歴史のふるさと、 	<p>○歴史的背景を踏まえ、近畿地方の日本や世界に果たす役割について理解する。</p> <p>○京都や奈良の歴史的背景を踏まえ、そこに住む人々の生活や文化から、歴史的都市としての特色を考察し、表現す</p>	<p>知識・技能★</p> <p>歴史的背景を踏まえ、近畿地方の日本や世界に果たす役割について理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>京都・奈良の歴史的都市としての特色を考え、まとめている。</p>

	奈良	る。	
75	3 港町から世界へ (教科書P.198-199) ・日本の窓口としての大阪湾 ・水の都、大阪の発展 ・世界への窓口となった神戸	○近畿地方の交通の変遷という歴史的背景が、人々の生活や産業、文化に与えた影響について理解する。 ○近畿地方と日本だけでなく外国との結び付きを、交通網から考察し、現状と課題をまとめる。	知識・技能 近畿地方の交通の変遷という歴史的背景が、人々の生活や産業、文化に与えた影響について理解している。 思考・判断・表現 近畿地方と日本だけでなく外国との結び付きについて、海上交通・航空交通から考察し、現状と課題をまとめている。
76	4 伝統を生かした産業と世界進出 (教科書P.200-201) ・転換期をむかえる阪神工業地帯 ・世界をめざす企業と伝統産業の取り組み ・都市の発展を支えた林業	○歴史的背景から近畿地方の伝統産業や工業の様子を理解する。 ○近畿地方の産業が抱える課題と解決への取り組みについて考察する。	知識・技能 歴史的背景を踏まえて、阪神工業地帯の様子や近畿地方の伝統的な産業を理解している。 思考・判断・表現★ 近畿地方の産業が抱える課題と解決に向けた取り組みについて考察し、自分の言葉でまとめている。
77	5 歴史を生かした観光業の推進 (教科書P.202-203) ・世界中から来る観光客のおもてなし ・歴史的な街なみの保存	○歴史的景観やそこに住む人々の生活環境の保全と外国との結び付きについて理解する。 ○近畿地方の歴史を生かした産業の課題とそれを解決する取り組みを、日本だけでなく外国との結び付きの中で考察し、追究する。	知識・技能 歴史的景観やそこに住む人々の生活環境の保全と外国との結び付きについて、理解している。 主体的に学習に取り組む態度★ 近畿地方の歴史を生かした産業の課題とそれを解決する取り組みを、日本だけでなく外国との結び付きの中で自分なりに追究している。
—	【自由研究】 大阪・関西万博が開かれる大阪市の湾岸部 【学習のまとめ】 近畿地方をふりかえる 【アクティビティ】 地域の魅力を広めようー施設づくりプロジェクトー (教科書P.204-205)	○歴史的背景から、今後の大阪の活性化を図るために取り組んでいる湾岸部の土地利用について、考察する。 ○自分たちの住む地方と日本だけでなく外国との結び付きの中で、今後の自分たちの住む地方の在り方を考察し追究する。	思考・判断・表現 歴史的背景から、今後の大阪の活性化を図るために取り組んでいる湾岸部の土地利用について、考察している。 主体的に学習に取り組む態度 自分たちの住む地方と日本だけでなく外国との結び付きの中で、今後の自分たちの住む地方の在り方を追究しようとしている。

第4節の目標	
<p>○中部地方の基礎的・基本的な地域的特色を大観する。</p> <p>○中部地方の産業に関わる特色ある地理的事象や事柄を、他の事象と有機的に関連付けて追究し、中部地方の地域的特色を捉える。</p> <p>○地図・グラフ・写真などの資料を活用し、中部地方の地域的特色を理解する。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.209「追究するテーマ」）</p> <p>中部地方の三つの地域では、それぞれどのような特色のある産業が発達していて、どのような課題があるのでしょうか。</p>	
第4節の 評価規 準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業」を中核とした考察の仕方を基に、東海・中央高地・北陸の三つの地域の地域的特色と、中部地方全体の地域的特色を理解している。 ・中部地方の地域的特色を理解するために、地図・グラフ・写真などの資料を適切に読み取り、図版や文章などに適切にまとめている。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの地域が他地域とどのように結び付いているか、様々な事象から適切に考察している。 ・中部地方の地域的特色を、「産業」を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業」を中核とした考察の仕方に基づき、中部地方の特色ある地理的事象や事柄を粘り強く追究している。 ・中部地方の地域的特色をどの程度追究できたかを確認し、より深い追究のためにはどのような学習をすればよいかを主体的に調整している。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】 中部地方 (教科書P.206-207)</p>	<p>○中部地方の産業や土地利用の様子を理解する。</p> <p>○写真やグラフなどの資料を活用して、今後の中部地方の学習に興味・関心をもつ。</p>	<p>知識・技能 中部地方の人口、人々の生活・産業などの様子をおおまかに捉えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 中部地方の自然環境や地形、産業に関心をもち、意欲的に追究している。</p>
78	<p>1 中部地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.208-209)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の屋根」のある中部地方 ・三つの地域の気候の特色 	<p>○中部地方は地形によって三つの地域に分けられることを理解する。</p> <p>○中部地方の三つの地域の変化に富んだ気候の特色を説明する。</p>	<p>知識・技能 中部地方の変化に富んだ地形や気候の特色を理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 中部地方の自然環境に対して関心をもち、地形や気候の様子を意欲的に追究している。</p>
79	<p>2 日本を支える工業の中心地、東海 (教科書P.210-211)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車工業の盛んな東海 ・なぜ東海の工業が発展したのか ・自動車工業の課題 	<p>○東海では自動車工業を中心に工業が盛んであることを理解する。</p> <p>○東海で工業が盛んな理由を説明する。</p>	<p>思考・判断・表現 東海で工業が盛んな理由を考察し、適切に表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 東海の自動車工業に関心をもち、その特色を意欲的に追究している。</p>
80	<p>3 交通網の整備による中央高地の産業の変化</p>	<p>○交通網の整備によって、農業・工業・観光業が変化して</p>	<p>知識・技能★ 中央高地の農業・工業・観光業の特色</p>

	(教科書P. 212-213) ・地形や気候に適応した特色のある農業 ・中央高地の工業の変化 ・リゾート地としての発展	いることを理解する。 ○中央高地の農業・観光業は、自然環境からどのような影響を受けているのかを考える。	を、自然環境や交通網と関連付けながら理解している。 思考・判断・表現 中央高地の農業・観光業の特色を自然環境と関連付けて考察し、適切に表現している。
81	4 自然環境からみた北陸の農業や工業 (教科書P. 214-215) ・水田単作の米作り ・伝統産業・地場産業の課題と取り組み ・日本の電力を支えてきた中部地方	○日本の電力を支える中部地方の役割について理解する。 ○北陸の農業や工業の特色を、自然環境と関連付けて考える。	知識・技能 北陸にある発電所は、関東地方や近畿地方への電力供給に重要な役割を果たしていることを理解している。 思考・判断・表現 北陸の農業・工業の特色を自然環境と関連付けて考察し、適切に表現している。
82 83	5 消費地と結びつく農業・漁業の戦略 (教科書P. 216-217) ・静岡県の茶の生産と消費地との結び付き ・温暖な気候と交通網を生かした園芸農業 ・焼津港の漁業と消費地との結び付き	○東海での農業の生産の工夫を理解する。 ○東海で、特色のある農業や漁業が発展してきた理由を、消費地や交通網の発展と関連付けて考える。	知識・技能 東海地方では、特色のある農業や漁業が発展していることを理解している。 思考・判断・表現★ 中部地方で特色ある産業が発達した理由を、自然環境や交通網の発達と関連付けて考察し、適切に表現している。
	【チャレンジ地理】 工場建設シミュレーション-知多半島のどこに工場を作る？- 【学習のまとめ】 中部地方をふりかえる (教科書P. 218-219)	○工場を建設する際に必要な要素を理解する。 ○工場建設候補地を選出する話し合いを通して、理由を示しながら自分の意見を伝える。	知識・技能 工業の発達には、物流、用地、労働力、歴史等の条件がそろうことが大切であることを理解している。 思考・判断・表現★ 教科書の地図をもとにして、各工場の特色や建設候補地の条件を踏まえてどこで生産をするかよいのかを考えている。

第5節の目標	
<p>○関東地方について、「交通・通信」を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付ける。</p> <p>○関東地方の地域的特色を、「交通・通信」を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。</p> <p>○「交通・通信」を中核とした考察の仕方を基に、関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとする。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.223「追究するテーマ」） 関東地方の多くの人々の活発な活動は、ほかの地方や外国と、どのようなつながりがあるのでしょうか。</p>	
第5節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方について、「交通・通信」を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・関東地方の地域的特色に関する様々な資料を収集し、それらの資料から、有用な情報を適切に選択し、関東地方の地域的特色について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方の地域的特色を、「交通・通信」を中核とした考察の仕方を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交通・通信」を中核とした考察の仕方を基に、関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】 関東地方 (教科書P.220-221)</p>	<p>○関東地方の面積、人口、県内総生産などを調べることで、関東地方の地域的特色をおおまかに捉える。</p> <p>○写真資料などから関東地方の地域的特色をつかんだり、関東地方の位置や範囲を捉えたりする。</p>	<p>知識・技能 関東地方の人口、人々の生活・産業などの様子をおおまかに捉えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 関東地方に関する写真・グラフなどの資料をもとに、関東地方の地域的特色を意欲的に追求している。</p>
84	<p>1 関東地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.222-223)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低地と台地からなる関東平野 ・乾燥した冬と暑い夏 	<p>○関東地方の地形や気候などを調べることで、関東地方の自然環境における地域的特色を理解する。</p> <p>○雨温図などの資料から関東地方の地域的特色をつかんだり、地図から関東地方の位置や範囲、構成する県を捉えたりする。</p>	<p>知識・技能 関東地方の県の名称と位置、県庁所在地名などの基礎的な知識を習得し、関東地方の自然環境における地域的特色を理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 関東地方に関する地図・写真・グラフなどの資料をもとに、関東地方の自然環境における地域的特色を意欲的に追究している。</p>
85	<p>2 世界都市、東京と日本や世界の結びつき (教科書P.224-225)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の首都・東京 ・世界都市・東京 ・日本や世界との交通・通 	<p>○東京と国内・外国との結びつきをもとに、東京の役割について考える。</p> <p>○様々な資料から、東京と国内・外国の結びつきを読み取る。</p>	<p>知識・技能 統計資料などをもとに、東京の機能と役割、そして東京が抱える課題をつかんでいる。</p> <p>思考・判断・表現★ 東京の一極集中の原因とその課題につ</p>

	信の結びつき		いて、多面的・多角的に考え、それらに対する答えを自分の言葉で表現している。
86	3 東京大都市圏の人々の結びつき (教科書P. 226-227) ・東京の都心と副都心 ・郊外の住宅地の広がり ・過密化を解消するための取り組み	○東京大都市圏の都市構造を、都心と郊外との結びつきやそれぞれの役割から捉える。 ○諸資料から、東京大都市圏を構成している近隣の県との結びつきや、過密化した都市の課題を読み取る。	知識・技能★ 統計資料などをもとに、都心と郊外の結びつきや都市における諸課題を多面的・多角的につかんでいる。 思考・判断・表現 都心と郊外との結びつき、そこから生じる都市における諸課題について、人の流れに着目してまとめている。
87	4 大都市圏を支える工業・農業と物資の移動 (教科書P. 228-229) ・臨海部と内陸部の工業地域 ・大消費地を支える関東地方の農業	○関東地方の人口、産業を調べることで、関東地方の人文環境における地域的特色を理解する。 ○主題図やグラフなどの資料から、関東地方における人口、産業、文化の特色をつかむ。	知識・技能 諸資料をもとに、関東地方で工業・農業が盛んな理由について、自然環境や東京大都市圏の結び付きの視点から導き出している。 思考・判断・表現 関東地方の工業・農業の特色について、東京大都市圏の結び付きから捉え、その関係性を自分なりの表現で説明している。
88	5 都市問題の解決に向けて (教科書P. 230-231) ・強まる一極集中で高まるリスク ・防災を考えた都市の再開発	○首都直下地震によって東京でどのような災害が起こるかを予測し、その対策を考えることで都市問題を理解する。 ○人口の集中や過密に伴う課題を、防災という視点を通して意欲的に追究する。	知識・技能 首都直下地震を念頭とし、どのような防災が考えられ、それがどのように都市の再開発に関係しているかについての知識を習得し、地域的特色を踏まえて理解を深めている。 主体的に学習に取り組む態度★ 都市問題の解決への取り組みについて自分事として捉え、意欲的に追究活動に取り組んでいる。
—	【自由研究】 オリンピック・パラリンピックからみる東京の変化 【学習のまとめ】 関東地方をふりかえる 【アクティビティ】 東京への一極集中について考えようーディベートー (教科書P. 232-233)	○東京の再開発について、「持続可能な東京」という視点からその内容について理解を深める。 ○東京の一極集中について対話的に授業を進めることにより、「持続可能な日本」について思考を深める。	知識・技能 「持続可能な東京」という視点に基づき、東京の再開発の在り方について理解している。 思考・判断・表現 東京の一極集中についてのディベートを通して、「持続可能な日本」について考え、自分の意見を発表している。

第6節の目標	
<p>○「持続可能な社会づくり」を中核とした考察の仕方を基に，東北地方の地域的特色を理解する。</p> <p>○震災被害の影響や社会の変化によって，人口や産業，伝統文化にどのような影響が生じ，それらを東北の人々がどのように乗り越えようとしているのかについて多面的・多角的に考察する。</p> <p>○持続可能な社会づくりに対して，防災・減災の観点から意欲的に追究している。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.237「追究するテーマ」）</p> <p>東北地方の人々は，東日本大震災や産業・伝統文化の変化をどのようにのりこえて，持続可能な社会づくりに取り組んでいるのでしょうか。</p>	
第6節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北地方について，「持続可能な社会づくり」を中核とした考察の仕方を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北地方の地域的特色を，「持続可能な社会づくり」を中核とした考察の仕方を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北地方の自然環境，人口，産業などの特色について大観する中で，特に持続可能な社会づくりや災害からの教訓に関心を持ち，災害に強いまちづくりについて，意欲的に追究し，捉えようとしている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で，それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】 東北地方 (教科書P.234-235)</p>	<p>○写真やグラフから東北地方の自然環境や人々の暮らしをおおまかに捉える。</p> <p>○写真やグラフなどの資料を活用して，今後の東北地方の学習に興味・関心をもつ。</p>	<p>知識・技能 東北地方の人口，人々の生活・産業などの様子をおおまかに捉えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 東北地方の様々な写真資料を活用し，東北地方の地域的特色を意欲的に追究している。</p>
89	<p>1 東北地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.236-237)</p> <ul style="list-style-type: none"> 南北にのびる山地と平地 日本海側と太平洋側で異なる気候 地形や気候を生かした人々の生活 	<p>○東北地方の自然環境は，太平洋側，内陸部，日本海側の三つに大別でき，人々の暮らしも異なっていることを理解する。</p> <p>○太平洋側と日本海側で気候が大きく異なる理由を考え，表現する。</p>	<p>知識・技能 東北地方の地形の特色を，三つの山地を中心に，川や平地，海岸線との関係から捉え，理解している。</p> <p>思考・判断・表現 東北地方の太平洋側と日本海側の気候の違いを，地形図や雨温図，写真などの資料から読み取り，適切に表現している。</p>
90	<p>2 農業をとりまく環境の変化と農家の対応 (教科書P.238-239)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北地方の農業 減反政策と農産物輸入の増加 新たな農業をめざす人々の取り組み 	<p>○減反政策と農産物の自由化が，東北地方の農業に与えた影響を理解する。</p> <p>○新たな農業をめざす人々の取り組みを，国内外の社会の動きと関連付けて考え，表現する。</p>	<p>知識・技能 減反政策と農産物の自由化が与えた東北地方の農業への影響を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 新たな農業をめざす人々の取り組みを，国内外の社会の動きと関連付けながら，多面的・多角的に考察している。</p>
91	<p>3 伝統文化の維持と革新 (教科書P.240-241)</p>	<p>○気候や生活に密着した多彩な東北地方の伝統文化を守るた</p>	<p>知識・技能★ 古くから続く祭りや伝統的な街なみを</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な祭りや年中行事 ・伝統文化を維持する取り組みと観光化 ・伝統産業にみられる新たな取り組み 	<p>めの様々な取り組みについて理解する。</p> <p>○祭りや年中行事の観光化や、伝統工業で新たな製品が生み出されている理由について、他地域との結び付きから考える。</p>	<p>守るための取り組みを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>伝統的工芸品を維持・発展させるための対応を他地域との結び付きから考察し、自分の言葉で説明している。</p>
92	<p>4 東日本大震災にともなう社会の変化 (教科書P. 242-243)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災がもたらした急激な人口の変化 ・震災で大きな影響を受けた農業・漁業 ・震災で世界にまで影響がおよんだ工業 	<p>○震災が東北地方の産業や人口に与えた影響を理解する。</p> <p>○被災地とそれ以外の地域で、震災が与えた影響の違いについて気付く。</p>	<p>知識・技能</p> <p>東日本大震災が与えた東北地方の人口や産業への影響を理解している。</p> <p>思考・判断・表現★</p> <p>被災地とそれ以外の地域で、震災が与えた影響の違いについて、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。</p>
93	<p>5 震災からの復興と災害に強い地域づくり (教科書P. 244-245)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災を伝承していく取り組み ・震災に強い地域づくりをめざして 	<p>○震災復興だけに留まらない、東北地方の各地の新たな地域づくりの取り組みを考察し、説明する。</p> <p>○教訓や伝承が、持続可能な社会を作るうえで重要であることに気付き、それぞれの取り組みの意義について追究しようとする。</p>	<p>思考・判断・表現★</p> <p>東北地方の人々がえがく新しい地域の姿を、震災後の取り組みと関連させながら、多面的・多角的に考察している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>過去の災害の伝承や東日本大震災の被害の未来への伝承について、関心を持ち、その重要性について真剣に考えようとしている。</p>
—	<p>【自由研究】</p> <p>新しいまちづくりをめざして</p> <p>【学習のまとめ】</p> <p>東北地方をふりかえる</p> <p>【アクティビティ】</p> <p>持続可能な社会をめざして—地域づくりプラン— (教科書P. 246-247)</p>	<p>○減災をめざした新しいまちづくりの工夫や努力、取り組みについて考える。</p> <p>○単元の学習内容を振り返り、「持続可能な社会づくり」を中核とした考察の仕方から東北地方の地域的特色をつかむ。</p>	<p>知識・技能</p> <p>「持続可能な社会づくり」を中核とした考察の仕方から東北地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>減災をめざす新しいまちづくりに関心を持ち、その取り組みについて意欲的に追究している。</p>

第7節の目標	
<p>○北海道地方の基礎的・基本的な地域的特色を大観する。</p> <p>○北海道地方の地形や気候などの自然環境を、人々の生活や産業などの他の事象と有機的に関連付けて追究し、地域的特色を捉える。</p> <p>○地図・グラフ・写真などの資料を活用し、北海道地方の地域的特色を理解し、地理的な見方・考え方を身に付ける。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.251「追究するテーマ」）</p> <p>北海道の寒冷な自然環境を、人々はどのように生かしたり克服したりして生活してきたのでしょうか。九州地方の温暖な自然環境や人々の生活と比較しながら追究しましょう。</p>	
第7節の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の地域的特色を、「自然環境」を中核とした考察の仕方を基に理解し、その知識を身に付けている。 様々な資料から、北海道地方の特色を読み取り、他の事象と関連付けながら活用している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の地域的特色を、「自然環境」を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の地域的特色や地域の課題について、既習事項を活用しながら自ら追究して学ぼうとしている。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で、それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
—	<p>【導入】</p> <p>北海道地方 (教科書P.248-249)</p>	<p>○資料や図から、北海道地方の自然環境について読み取る。</p> <p>○北海道地方ではどのような産業が発達しているのか、人々はどのような生活をしているのか、自然環境と関連付けながら考える。</p>	<p>知識・技能</p> <p>資料や図から広大な面積、豊かな自然、寒冷な気候など、北海道の自然環境について読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>広大な土地を活用した大規模な農業経営、自然環境を生かした観光業、寒さに対する衣服の工夫など、産業や人々の生活について意欲的に追究している。</p>
94	<p>1 北海道地方の自然環境と人々のかかわり (教科書P.250-251)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北の大地の姿 寒さがきびしく雪の多い冬の気候 比較的過ごしやすい夏の気候 	<p>○北海道地方の大きさや位置を捉え、地形や人口分布（都市の位置）の特色について理解する。</p> <p>○北海道地方は同じ冷帯でも、地域によって気候の特色が異なる理由を考える。</p>	<p>知識・技能</p> <p>北海道地方の人口分布の特色を地形や気候と関連付けて理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>北海道地方の地形や気候について、西部、中央部、東部の共通点と異なる点を説明している。</p>
95	<p>2 寒冷な気候に対応した人々の生活 (教科書P.252-253)</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌの人々と開拓のあゆみ 現在の北海道の冬の生活 札幌市の発展 	<p>○北海道地方の開拓以降、アイヌ民族の生活や文化がどのように変化してきたか理解する。</p> <p>○北海道地方の人々の生活における、自然環境に対応する工夫を、資料から多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>アイヌ民族の生活や文化は開拓により失われたが、それらを尊重し伝承していく動きが高まっていることを理解する。</p> <p>思考・判断・表現★</p> <p>寒冷で雪の多い地域における自然環境に対応する工夫を、資料から多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

96	<p>3 きびしい自然環境を克服した農業 (教科書P. 254-255)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を克服してきた稲作・畑作 ・酪農の発展と輸送手段の進歩 ・食の安全への対応 	<p>○北海道地方の農業の特色を、自然環境と関連付けて理解する。</p> <p>○北海道地方の農業の課題について、どのような取り組みが行われているか説明する。</p>	<p>知識・技能★ 厳しい自然環境を克服しながら、どのようにして稲作・畑作・酪農が行われているのか理解している。</p> <p>思考・判断・表現 価格の安い輸入農産物に対してどのような取り組みが行われているかこれまでの学習を生かしまとめている。</p>
97	<p>4 自然環境を生かした観光と世界との結び付 (教科書P. 256-257)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の寒さを生かした観光 ・観光による地域の活性化 ・北海道の観光の課題 	<p>○寒冷な自然環境を生かした観光資源には、どのようなものがあるのか理解する。</p> <p>○観光による地域の活性化と課題について考える。</p>	<p>知識・技能 これまでの学習を生かしながら、自然環境を生かした観光資源について理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 観光業が盛んになることのプラス面とマイナス面について、地域の活性化と自然環境の両面から考えている。</p>
98	<p>5 自然環境との共生をはかるために (教科書P. 258-259)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とる漁業から育てる漁業へ ・環境保全に配慮した観光 	<p>○水産資源の保護と漁業を両立するための取り組みについて理解する。</p> <p>○自然環境と人々の共生の方法について考える。</p>	<p>知識・技能 水産資源の保護と漁業を両立するための取り組みについて理解している。</p> <p>思考・判断・表現★ 自然環境と人々の共生の方法について観光業が適切かどうか判断し結論付けている。</p>
-	<p>【自由研究】 自然環境の視点からみた石狩平野の発展</p> <p>【学習のまとめ】 北海道地方をふりかえる</p> <p>【アクティビティ】 環境保全と観光業は両立できるか考えようーPMI表づくりー (教科書P. 260-261)</p>	<p>○これまでの学習を生かし、北海道地方の人々の生活を考察する。</p> <p>○環境保全と観光業は両立できるか考える。</p>	<p>思考・判断・表現 石狩平野を例に、寒冷な気候を克服している北海道地方の人々の生活について考えている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 「野生動物との共存」というテーマで、環境保全と観光業を両立させていこうとする意識と意欲を高めている。</p>

第4章の目標	
<p>○地域の特色や課題の解決に向けて考察，構想したことを適切に説明，議論しまとめる手法について理解し，地域の実態や課題の要因を理解する。</p> <p>○地域の在り方を，他地域との結び付きや地域の変容，持続可能性などに着目し，地域でみられる課題についての解決策を，他地域と比較したり，様々な立場の人の立場に立ったりして，多面的・多角的に考察，構想し，表現する。</p> <p>○よりよい地域社会の実現のために，地域の課題を主体的に解決しようとするとともに，多面的・多角的に地域の課題の解決策を話し合い，考え，意欲的に追究する。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.263「追究するテーマ」） 地域でみつけた課題を解決するためには，今後どのようなことが求められるのでしょうか。</p>	
第4章の評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題の解決に向けて考察，構想したことを適切に説明，議論しまとめる手法について理解し，資料などから読み取りまとめる活動などを通して，地域の課題にまつわる特色を理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の在り方を，他地域との結び付きや地域の変容，持続可能性などに着目し，地域でみられる課題についての解決策を，他地域と比較したり，様々な立場の人の立場に立ったりして，多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の「まちづくりプラン」を提案し，地域をよりよくするための話し合いを通して意欲的に追究している。

※評価規準の★は「評定に用いる評価」で，それ以外は「学習改善につなげる評価」を示します。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
99	1 地域の課題と特色をつかもう (教科書P.264-265) ・日本全体の課題をふりかえる ・調査テーマと調査する地域を決定する	○日本の諸地域でみられた課題をふりかえり，そこから全国でみられた課題は，地域の課題として見出せることを理解する。 ○「自然環境」「人口や都市・村落」「産業」「交通・通信」「その他（歴史的背景・持続可能な社会づくりなど）」の五つの視点のうちから一つを選び，地域の課題について，その視点からそれらを調べるための資料や学習計画を考える。	知識・技能 日本の諸地域でみられた課題から自分の住む地域の課題を見出している。 思考・判断・表現 五つの視点の中から，地域の課題の特色について調査方法を考えている。
100 101	2・3 地域の課題の要因を考察しよう—自然と防災班— (教科書P.266-267) ・課題に対する取り組みを調査し考察する	○過去の出来事や，自分たちの地域の取り組みを調査し，集めた資料から地域の自然や防災に対する取り組みを理解する。 ○集めた資料から読み取ったことや疑問点などをまとめ，様々な立場や他の視点から地域の自然や防災に関して，どのように地域の在り方を構想	知識・技能 地域の特色と課題について調査したことをまとめ，調べたことから地域の自然や防災に対する取り組みや課題を理解している。 思考・判断・表現 資料や調査したことをもとに，地域の自然や防災に関する課題を様々な立場から多面的・多角的に捉え，考察している。

		していくかについての大きな方針を話し合う。	
	2・3 地域の課題の要因を考察しようー交通と観光班ー (教科書P.268-269) ・課題を多面的にとらえて考察する	○自分たちの地域の課題や比較できるような他地域の取り組みなどを調査し、集めた資料から地域の交通や観光に対する取り組みを理解する。 ○集めた資料から読み取ったことや疑問点などをまとめ、様々な立場や考え方の違いに着目して、地域の交通と観光に関して、どのように地域の在り方を構想していくかについての大きな方針を話し合う。	知識・技能 地域の特色と課題について調査したことをまとめ、調べたことから地域の交通や観光に対する取り組みや課題を理解している。 思考・判断・表現 資料や調査したことをもとに、地域の交通や観光に対する課題を様々な立場や考え方の違いを踏まえて、多面的・多角的に捉え、考察している。
102	4 課題の解決に向けて構想しよう (教科書P.270-271) ・よりよいまちづくりプランを考える	○地域の課題についての改善策を考え、「まちづくりプラン」を作り、「まちづくり会議」に向けて提案の準備をする。 ○課題の要因やよりよい解決策を考え、自分たちの考えをわかりやすく伝える工夫をしてポスターやプレゼンテーション資料にまとめるなどの活動を行う。	思考・判断・表現★ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめている。 主体的に学習に取り組む態度 地域の課題について、調べたことや考えたことをまとめ、よりよい地域の在り方についての提案を意欲的に考えている。
103	5 まちづくり会議を開こう (教科書P.272-273) ・会議を開くにあたって ・会議を終えて	○地域をよりよくする「まちづくりプラン」について、多面的・多角的に考え、構想する。 ○地域の「まちづくりプラン」を提案し、地域をよりよくするための方策についての話し合いに意欲的に取り組む。	思考・判断・表現★ 地域をよりよくするための方策について、多面的・多角的に考えている。 主体的に学習に取り組む態度★ 地域の「まちづくりプラン」を提案し、地域をよりよくするための話し合いに意欲的に取り組んでいる。